

第Ⅲ部 調査結果の詳細

第1章 「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」について

1 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度（問1）

プランの各施策に関連する事柄について、満足度を5「十分」～1「不十分」の5段階で質問した。

（1） 戦略1 秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略について

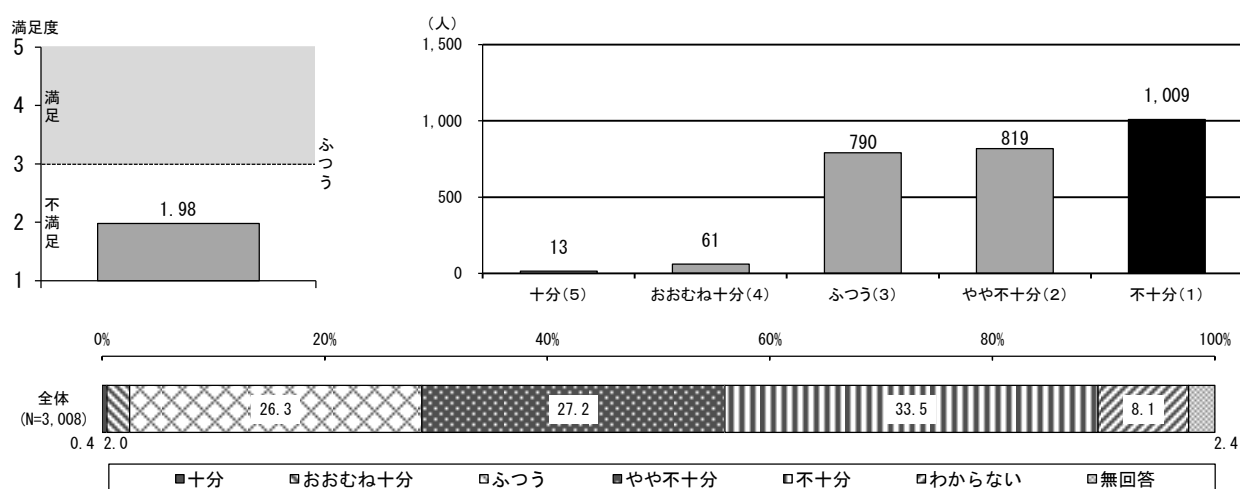
ア 社会減の抑制に向けた雇用の場の創出、人材育成・確保

問1-1 若者にとって魅力的な働く場が確保されている。

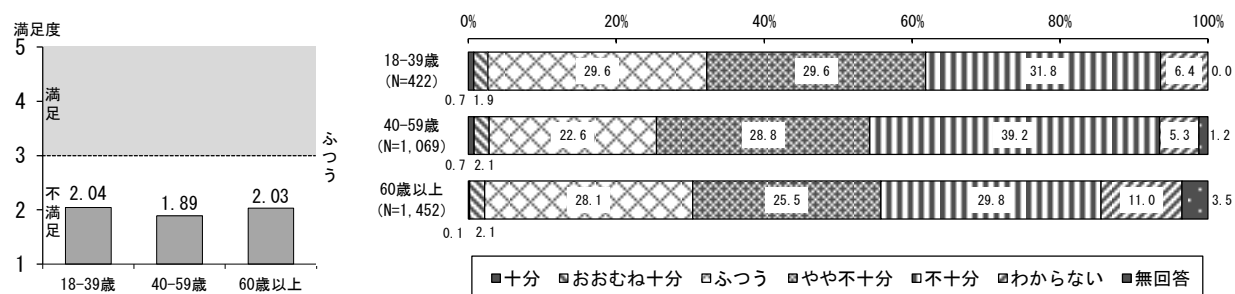
（a）満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は1.98で、「ふつう」の3より1.02低かった。回答では「不十分」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は2.4%、「ふつう」は26.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は60.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は28.7%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.04であり、不満を感じていない人の割合は32.2%であった。一方、「40～59歳」の満足度は1.89であり、不満を感じていない人の割合は25.4%であった。



(b)「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 1,828 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、739 人 (40.4%) から回答があった。

回答の一部

- 若者がやりたいと思う職種、職場が少ないという意味では魅力的な働く場は少ないと思ってしまう。給料も低いのでなおさら魅力が減る。(女性／30 歳代／山本地域)
- 企業が魅力を伝えられるように高校や大学での説明会の開催を活発にしてほしい。さらに、中学生にも秋田の企業を知ってもらえる機会を増やしてほしい。(男性／20 歳代／由利地域)
- 中小企業等は若者の採用に積極的に取り組んでいる様子が伺えるが、働き方改革への対応や I o T、A I の導入など若者に魅力的な働き方や環境の整備の実現は、日常業務で手が一杯で難しいと思う。(女性／30 歳代／秋田地域)

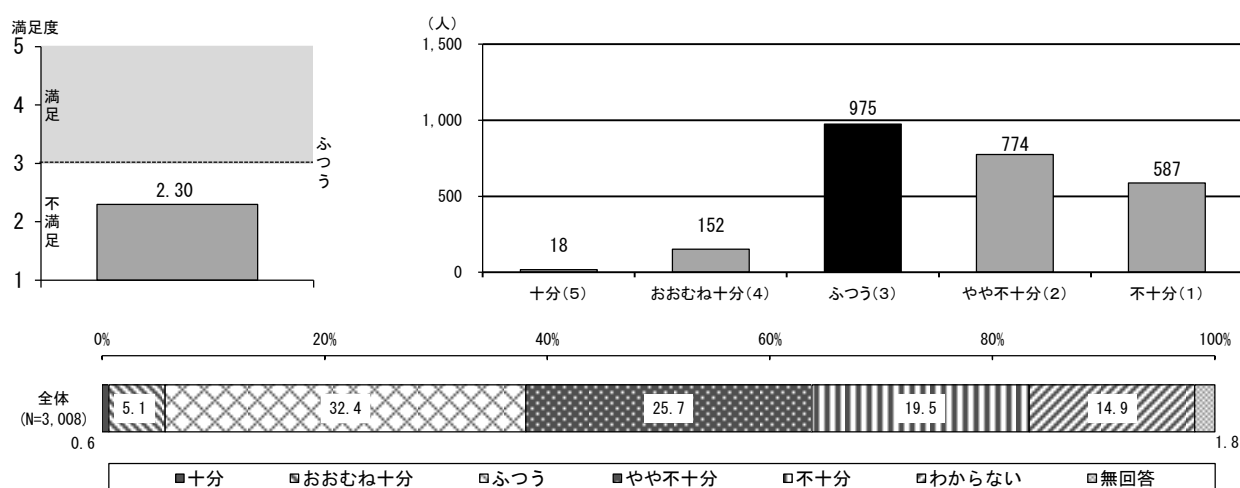
イ 若者の県内定着・回帰と移住の促進による秋田への人の流れづくり

問 1-2 高校生や大学生の県内就職が進んでいる。

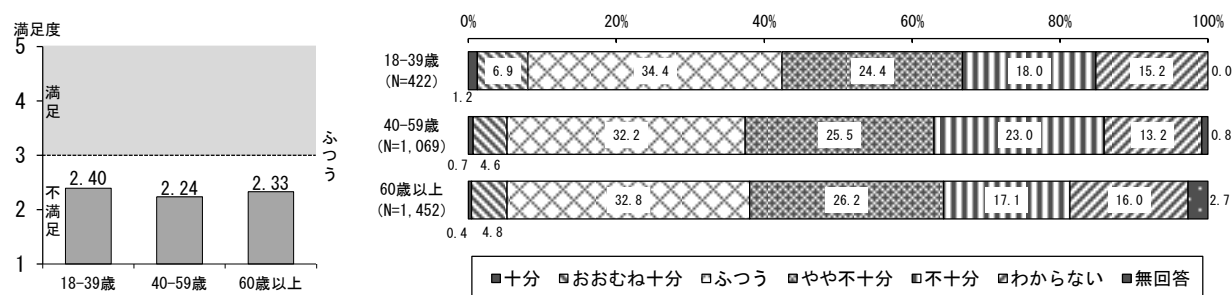
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.30で、「ふつう」の3より0.70低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は5.7%、「ふつう」は32.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は45.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は38.1%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 2.40 であり、不満を感じていない人の割合は 42.5% であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 2.24 であり、不満を感じていない人の割合は 37.5% であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 1,361 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、414 人 (30.4%) から回答があった。

回答の一部

- 学生は修得した専門分野を活かしたい志向が働き、どうしても地元に残らなければならない学生だけが県内に留まっている感じがする。(男性/60 歳代/秋田地域)
- 大学生の県内就職に関して、県内の企業は、長く働き続けることができることや、福利厚生が充実した働きやすい職場であることなどの魅力をもっとアピールすべき。(男性/20 歳代/由利地域)
- 働く上での条件（賃金、仕事内容、福利厚生等）が合わなければ定着は望めないと考えます。企業説明会も大切ですが、新規採用を希望する企業の要望と学生の職業観に着目した取組が必要と思います。(女性/20 歳代/由利地域)

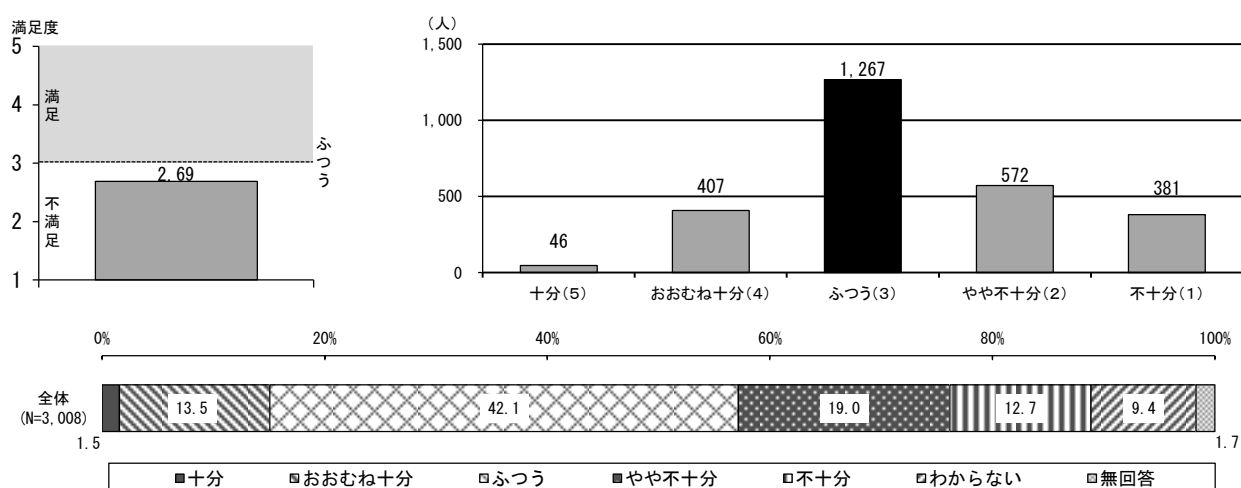
ウ 結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポート

問 1-3 安心して子育てができる社会になっている。

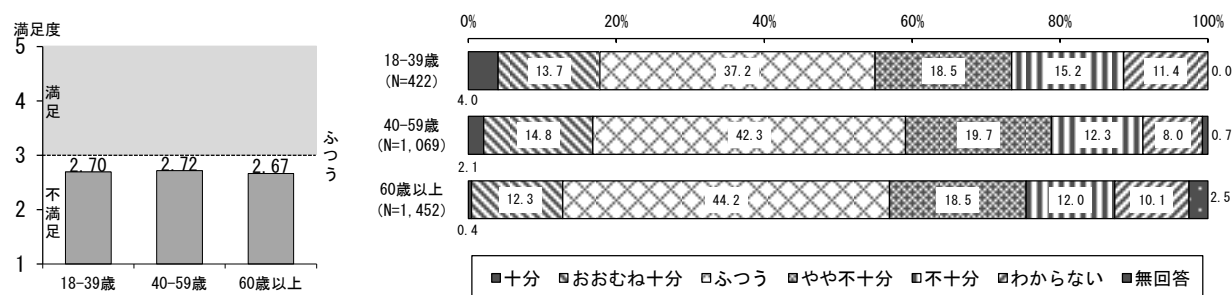
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.69で、「ふつう」の3より0.31低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は15.0%、「ふつう」は42.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は31.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は57.1%であった。



年代別では、「40～59歳」の満足度が最も高く2.72であり、不満を感じていない人の割合は59.2%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.67であり、不満を感じていない人の割合は56.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した953人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、307人(32.2%)から回答があった。

回答の一部

- 保育施設や学童施設の整備が不十分であり、共働き世帯が安心して働ける環境になっていない。(男性/40歳代/秋田地域)
- サポート環境は整っているかもしれないが、一人ひとりの給料があまり高くないため、収入面での安定、安心感がしっかり持てず、出産・子育てに対する不安は残ってしまうと思う。(女性/30歳代/山本地域)
- 子どもを産む時にどのような自治体の支援があるのかよく分からない。各々の自治体の取組をどんな立場の女性であっても分かるように周知してほしい。(女性/20歳代/秋田地域)

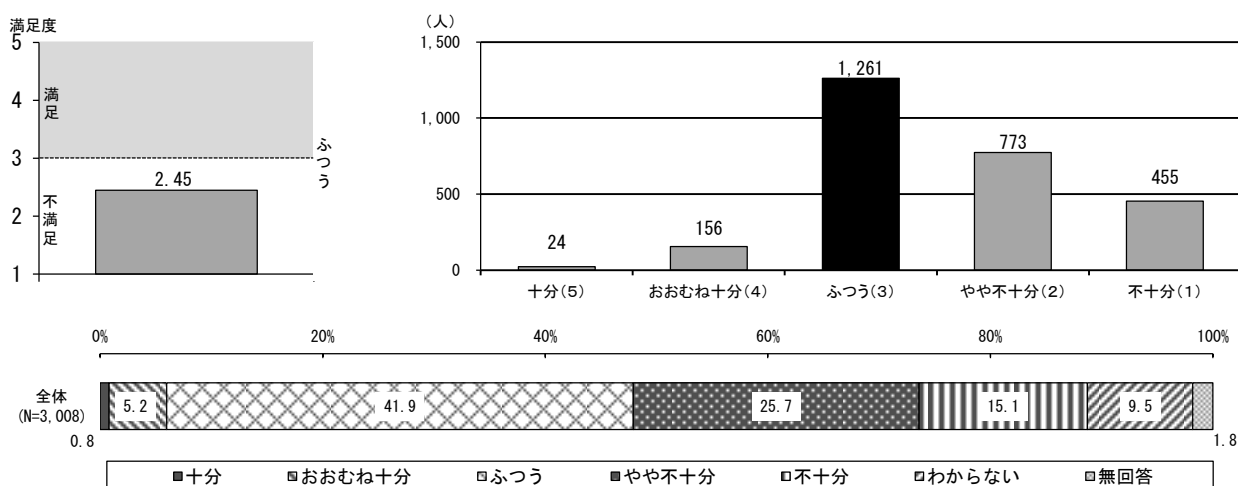
エ 女性や若者の活躍推進とワーク・ライフ・バランスの実現

問 1-4 女性や若者が職場や地域で生き生きと活躍できる社会になっている。

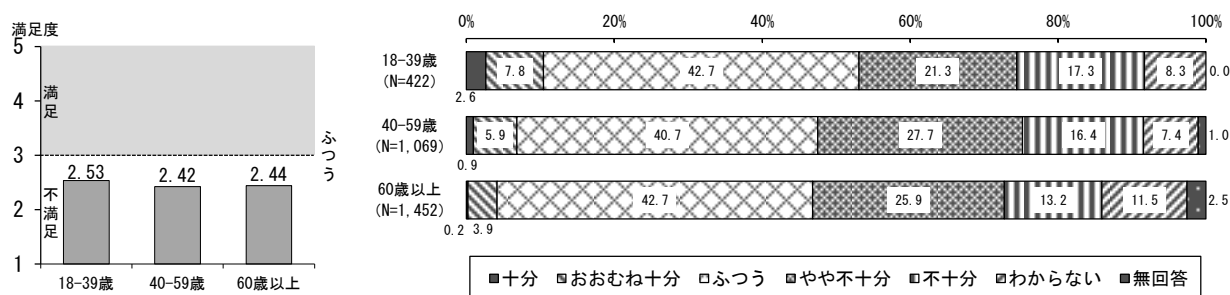
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.45で、「ふつう」の3より0.55低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は6.0%、「ふつう」は41.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は40.8%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は47.9%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.53であり、不満を感じていない人の割合は53.1%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.42であり、不満を感じていない人の割合は47.5%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,228人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、323人(26.3%)から回答があった。

回答の一部

- 今の時代に反するでしょうが、「女性の活躍＝女性も社会に出て働くこと」というのはちょっと違うような気がしています。むしろ、共働きしなければ余裕のある生活を送ることができなくなっていることが、晩婚化や少子化、子育ての困難などを招いているように思います。(男性/40歳代/秋田地域)
- SDGsをもっと取り上げるなどして、女性だから・若者だから、という偏見をなくしていくことから始める必要があると思います。(女性/50歳代/秋田地域)
- 女性や若者が活躍できる！と言われることも多いが、年功序列という考えがまだまだ抜けない企業が多いと思う。(女性/20歳代/秋田地域)

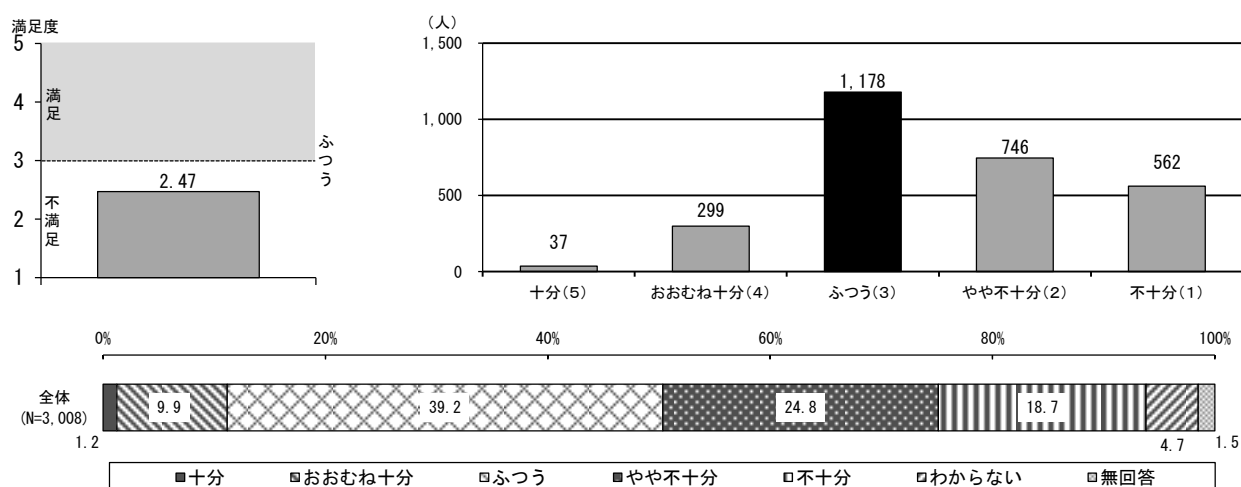
オ 活力にあふれ、安心して暮らすことができる地域社会づくり

問 1-5 地域交通や買い物サービスなどの日常生活に必要な機能が維持され、安心して生き生きと生活できる地域社会になっている。

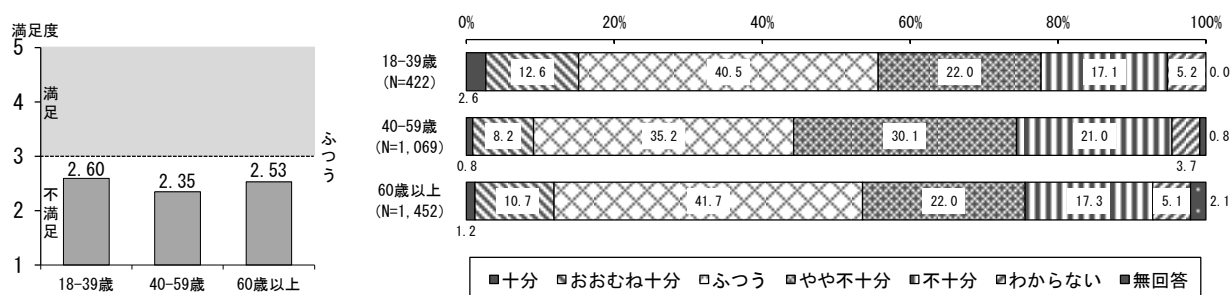
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は 2.47 で、「ふつう」の 3 より 0.53 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 11.1%、「ふつう」は 39.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 43.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 50.3%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 2.60 であり、不満を感じていない人の割合は 55.7%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 2.35 であり、不満を感じていない人の割合は 44.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 1,308 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、487 人 (37.2%) から回答があった。

回答の一部

- バスなどの公共交通機関がなく、通学も車での送迎が必要。車の運転ができなければどこにも行けず地域から離れる人が増えている。(女性/40 歳代/北秋田地域)
- 公共交通は年々不便になりつつあり、使い物にならない。車を運転できない高齢者のために買い物サービスを含めサポートできる体制を強化すべき。(男性/50 歳代/平鹿地域)
- 高齢者が多い本県では民間バス事業者での対応に限界があるのではないのでしょうか。コミュニティ路線の確保により高齢者の移動の足を確保しつつ、移動販売車の利活用を推進していただきたい。(男性/50 歳代/秋田地域)

(2) 戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略について

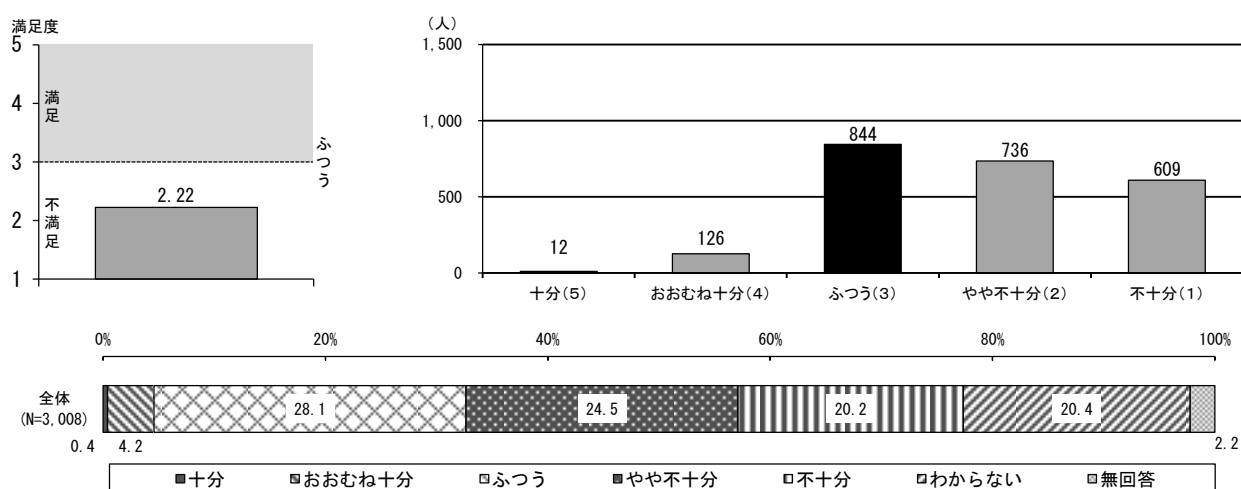
ア 成長分野の競争力強化と中核企業の創出・育成

問 1-6 地域経済を牽引^{けん}することができる競争力を持った企業が増えている。

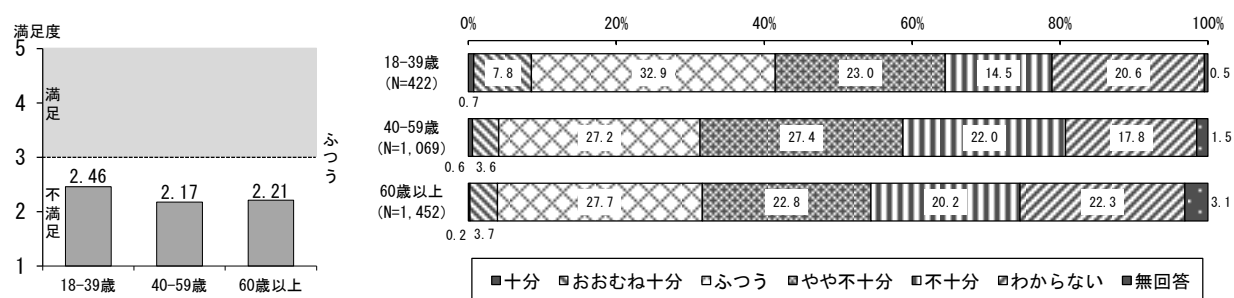
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.22で、「ふつう」の3より0.78低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は4.6%、「ふつう」は28.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は44.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は32.7%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.46であり、不満を感じていない人の割合は41.4%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.17であり、不満を感じていない人の割合は31.4%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,345人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、286人（21.3%）から回答があった。

回答の一部

- 優秀な企業は多いが、地域経済を牽引できる企業があるのは一部の地域に限られる。(男性/50歳代/平鹿地域)
- そもそも企業が少なく、単一商品を扱う業種が多い。多様性や総合性を持った企業を誘致するなり、作り上げるなりすべき。(男性/40歳代/北秋田地域)
- 他県に比べて圧倒的に劣勢に感じます。経営者の世代交代と企業の新陳代謝を進めることが先決だと思います。(男性/60歳代/秋田地域)

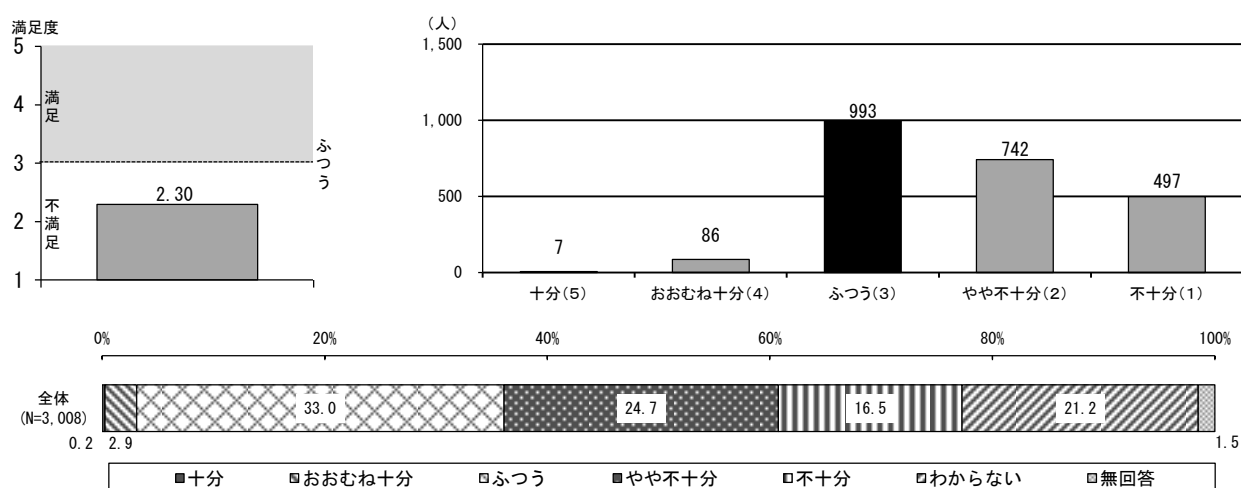
イ 中小企業・小規模企業者の活性化と生産性向上

問 1-7 中小企業の安定した経営が確保されている。

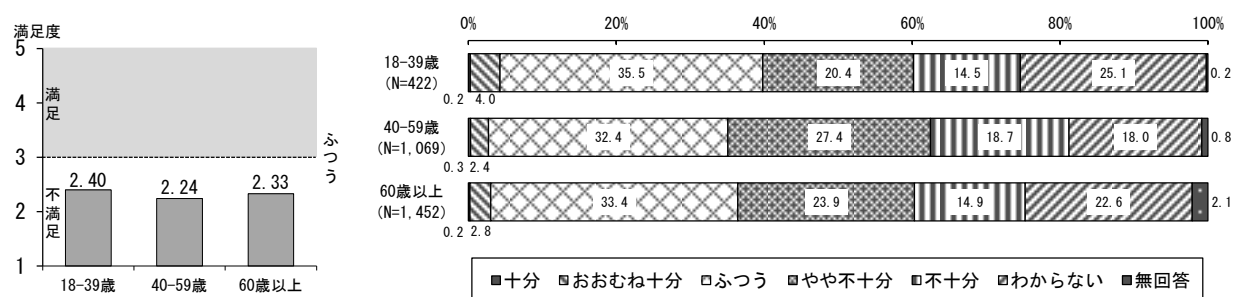
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.30で、「ふつう」の3より0.70低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は3.1%、「ふつう」は33.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は41.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は36.1%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.40であり、不満を感じていない人の割合は39.7%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.24であり、不満を感じていない人の割合は35.1%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,239人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、232人(18.7%)から回答があった。

回答の一部

- コロナの影響もあると思うが、将来的に事業継続の見通しが明るい企業は少ないと思う。(男性/30歳代/秋田地域)
- 少子化、人口流出により、買い手も働き手も不足し、経営の先行きが不安視されていると思う。(女性/60歳代/平鹿地域)
- 後継者がおらず、高齢の代表者が辞めると経営が成り立たない会社が多いと思います。経営者もあまり自分の子どもには継がせたくないような感じも見受けられます。(男性/50歳代/北秋田地域)

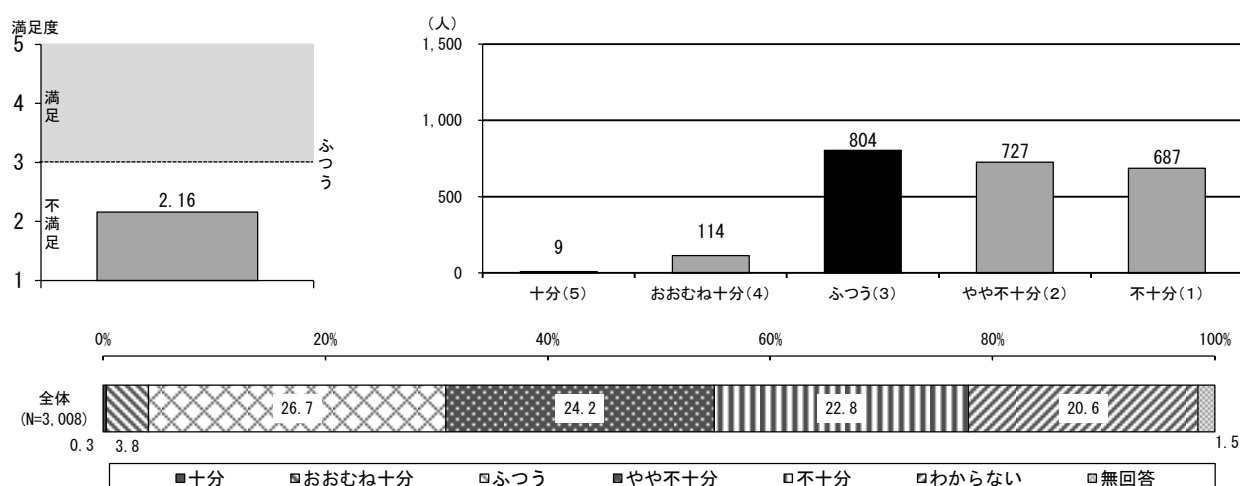
ウ 国内外の成長市場の取り込みと投資の促進

問 1-8 企業誘致が進んでいる。

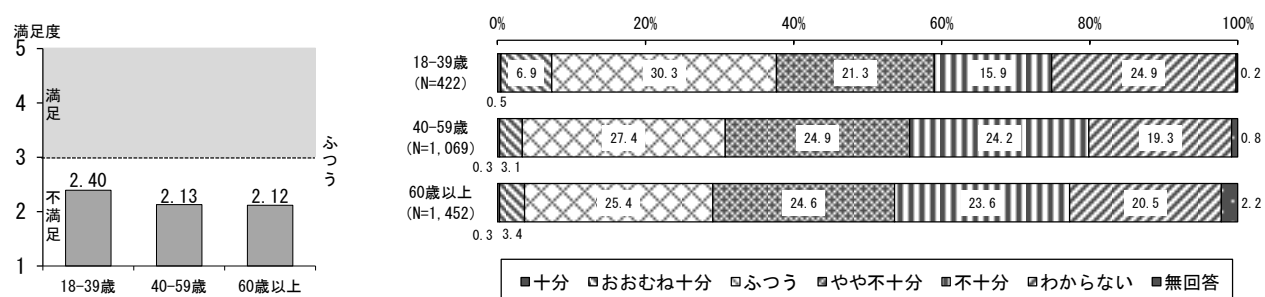
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.16で、「ふつう」の3より0.84低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は4.1%、「ふつう」は26.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は47.0%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は30.8%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 2.40 であり、不満を感じていない人の割合は 37.7% であった。一方、「60 歳以上」の満足度は 2.12 であり、不満を感じていない人の割合は 29.1% であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 1,414 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、304 人 (21.5%) から回答があった。

回答の一部

- 秋田市周辺では進んでいるのかもしれないが、県全体で進んでいるようには思えない。(男性/40 歳代/平鹿地域)
- もっと色々な業種の誘致企業が増えれば若者の就職にもつながる。(女性/40 歳代/平鹿地域)
- 秋田県の賃金水準が低い事を理由に進出している企業もあると感じる。ただ誘致数を増やせば良いというものではないと思う。(男性/40 歳代/秋田地域)

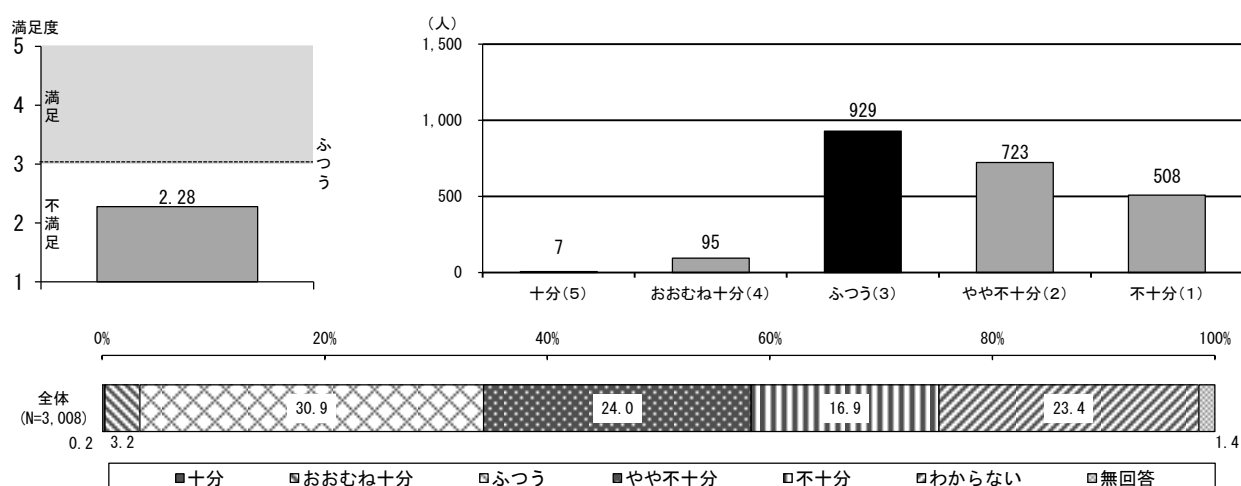
エ 産業人材の確保・育成と働きやすい環境の整備

問 1-9 産業人材の確保・育成が進んでいる。

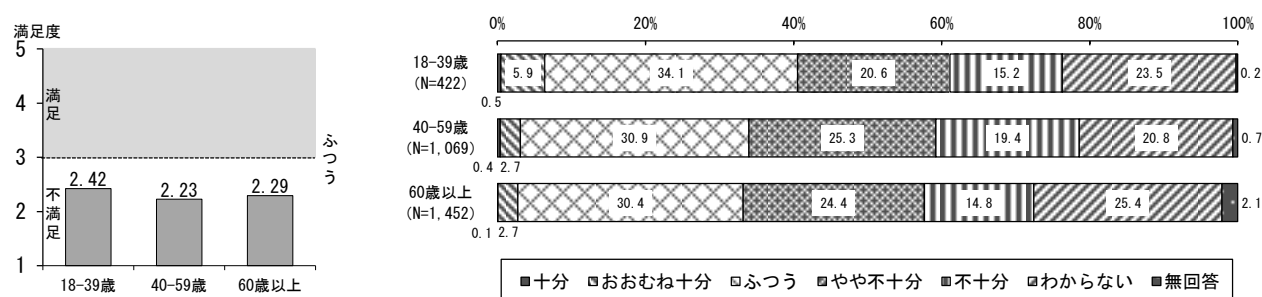
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.28で、「ふつう」の3より0.72低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は3.4%、「ふつう」は30.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は40.9%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は34.3%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.42であり、不満を感じていない人の割合は40.5%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.23であり、不満を感じていない人の割合は34.0%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,231人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、230人(18.7%)から回答があった。

回答の一部

- 高校の専門分野の教育がもう少し有用で社会で通用するものにするべき。(女性/70歳以上/由利地域)
- 企業が増えても専門性や何かのインセンティブがないと、優秀な人材は県外に流出してしまう。(男性/60歳代/秋田地域)
- 特に建設業や製造業において、労働力人口の減少や高齢化により、技術者が不足していると感じる。人材確保に向けて様々な施策を講じる必要があると思う。(男性/40歳代/秋田地域)

(3) 戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略について

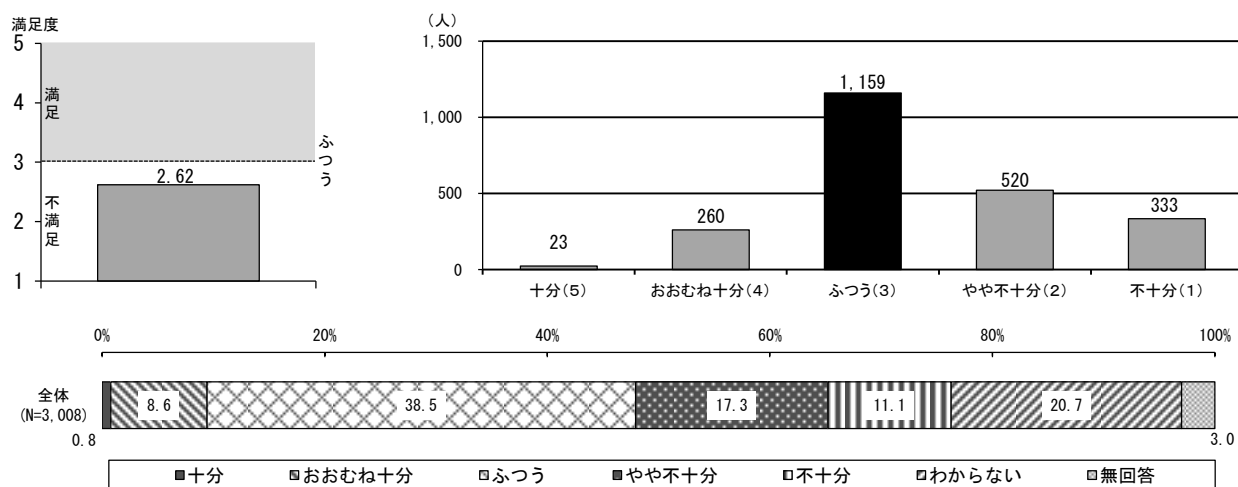
ア 秋田の農林水産業を牽引する多様な人材の育成

問 1-10 農林水産業で働く人が、地域で元気に活躍している。

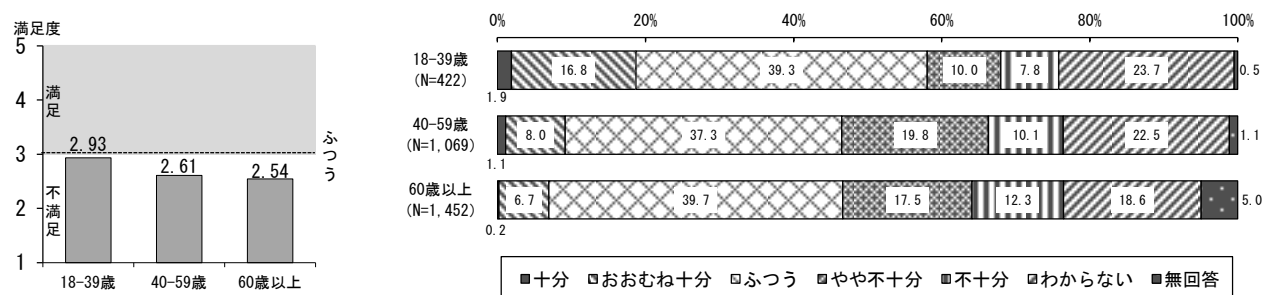
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.62で、「ふつう」の3より0.38低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は9.4%、「ふつう」は38.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は28.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は47.9%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.93であり、不満を感じていない人の割合は58.0%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.54であり、不満を感じていない人の割合は46.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した853人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、262人(30.7%)から回答があった。

回答の一部

- 農林業については後継者、担い手がない状況で、休耕農地や放置林が目立ち、農業法人、林業法人等による管理運営が必要と思う。(男性/70歳以上/北秋田地域)
- 県内で第1次産業に従事している人々の高齢化が進んでいるようなので、もっと若者に興味を持ってもらえるよう、スピード感を持って対策を進めてほしい。(女性/60歳代/秋田地域)
- 若手の参入が少なく農地の縮小も心配される。冬季の業務が無い又は少なく、通年雇用が難しい。(男性/30歳代/平鹿地域)

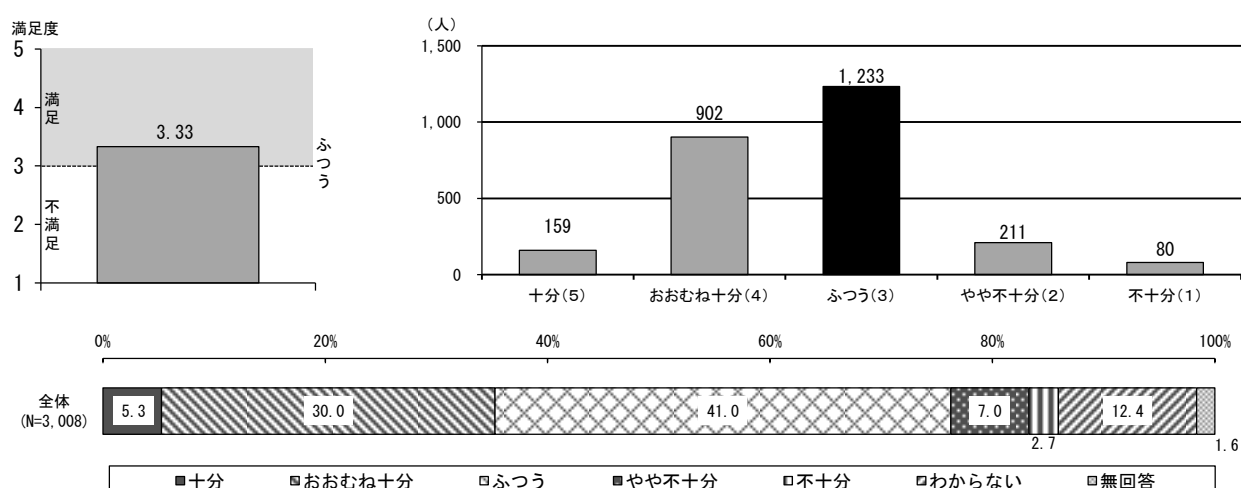
イ 複合型生産構造への転換の加速化

問 1-11 えだまめ、ねぎ、しいたけ、キク、秋田牛などの生産が盛んに行われている。

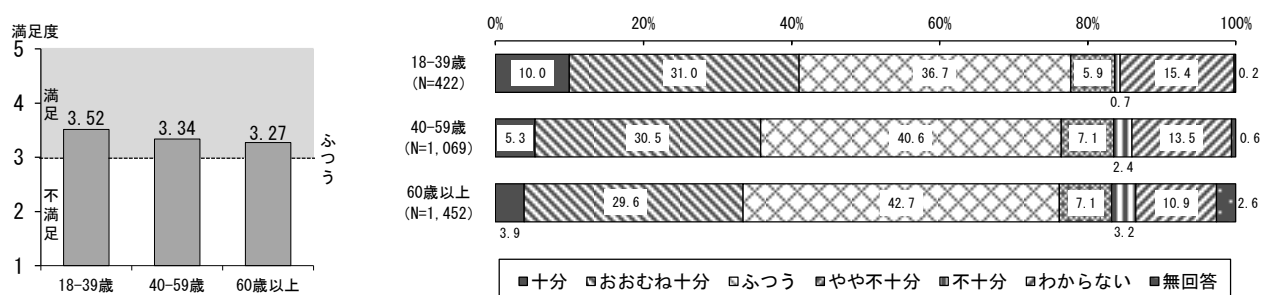
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は 3.33 で、「ふつう」の 3 より 0.33 高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 35.3%、「ふつう」は 41.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 9.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 76.3%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.52 であり、不満を感じていない人の割合は 77.7%であった。一方、「60 歳以上」の満足度は 3.27 であり、不満を感じていない人の割合は 76.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 291 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、90 人 (30.9%) から回答があった。

回答の一部

- それなりのブランド力があるねぎや比内地鶏に比べ、枝豆、椎茸などは生産が盛んに行われていることを知っている人が少ないと思う。もっとアピールしてもいい。(女性/20 歳代/秋田地域)
- 秋田牛は美味しいと思うが、他のものは特に秋田産だからということで買うことはしない。(女性/60 歳代/秋田地域)
- 枝豆やシイタケなど出荷額がトップクラスであることが周知されていない。ブランド化されていない。(男性/40 歳代/秋田地域)

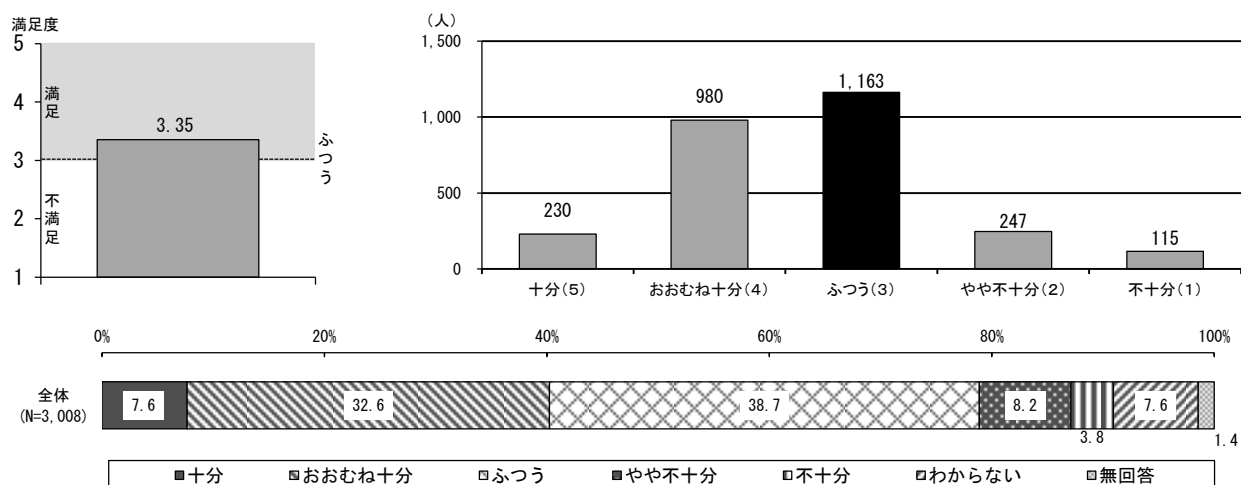
ウ 秋田米の戦略的な生産・販売と水田フル活用

問 1-12 あきたこまちをはじめ、全国の産地間競争に打ち勝つ米づくりが盛んに行われている。

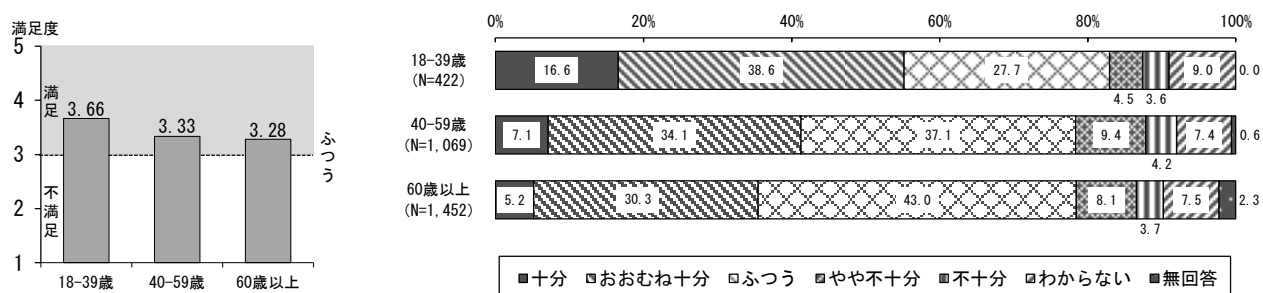
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は 3.35 で、「ふつう」の 3 より 0.35 高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 40.2%、「ふつう」は 38.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 12.0%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 78.9%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.66 であり、不満を感じていない人の割合は 82.9%であった。一方、「60 歳以上」の満足度は 3.28 であり、不満を感じていない人の割合は 78.5%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 362 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、136 人 (37.6%) から回答があった。

回答の一部

- 新ブランド米として“サキホコレ”が開発されたので、県内外の人々の胃袋をつかむものに成長していくことを望む。(女性/60 歳代/由利地域)
- 「サキホコレ」が今後どのように評価されていくか注目していますが、国内の各所で新品種が作り出されている中で競争に打ち勝つには、秋田県人が苦手としている売り込む力を高めることが重要だと思います。(男性/40 歳代/秋田地域)
- あきたこまちのように大ヒットしなくても他の農業県のように品種改良をしたブランド米を数多く出してほしい。(男性/40 歳代/平鹿地域)

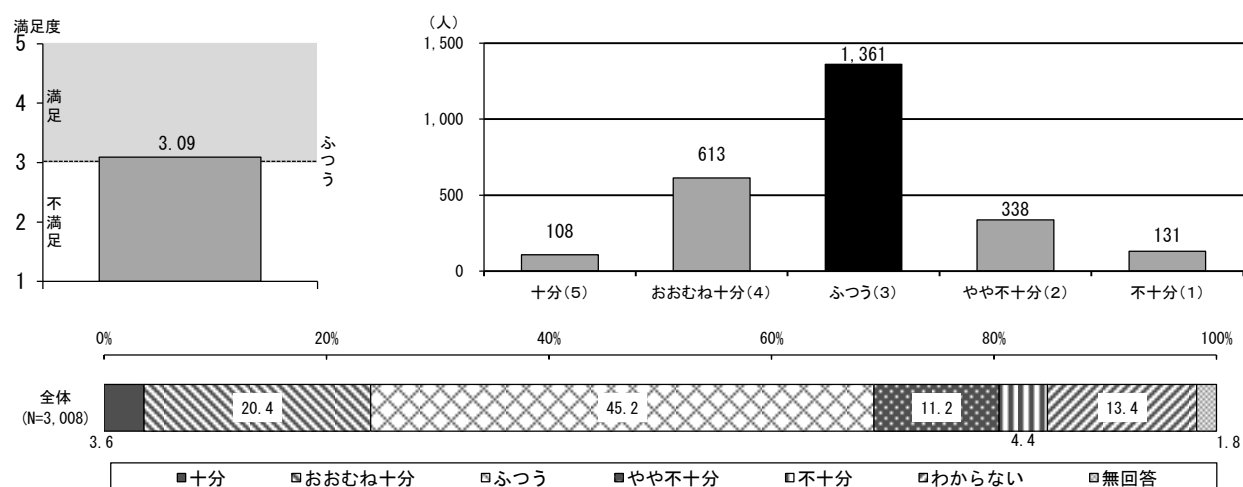
エ 農林水産物の高付加価値化と国内外への展開強化

問 1-13 飲料や発酵食品など、県産の農林水産物を生かした加工品づくりや販売が盛んに行われている。

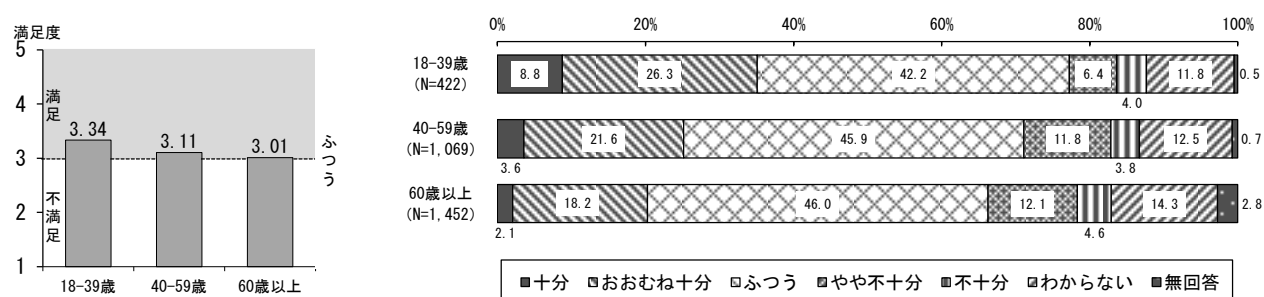
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は 3.09 で、「ふつう」の 3 より 0.09 高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 24.0%、「ふつう」は 45.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 15.6%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 69.2%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.34 であり、不満を感じていない人の割合は 77.3%であった。一方、「60 歳以上」の満足度は 3.01 であり、不満を感じていない人の割合は 66.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 469 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、112 人 (23.9%) から回答があった。

回答の一部

- 秋田県には素晴らしい食品等がたくさんある。販路をもっと拡大することが必要。(女性/60 歳代/鹿角地域)
- 秋田の食品加工はせいぜい加工所・販売所どまりで、会社規模まで発展するのは聞いたことがない。(男性/50 歳代/由利地域)
- 他県に自信をもって紹介できる加工品が思い浮かばない。(女性/30 歳代/秋田地域)

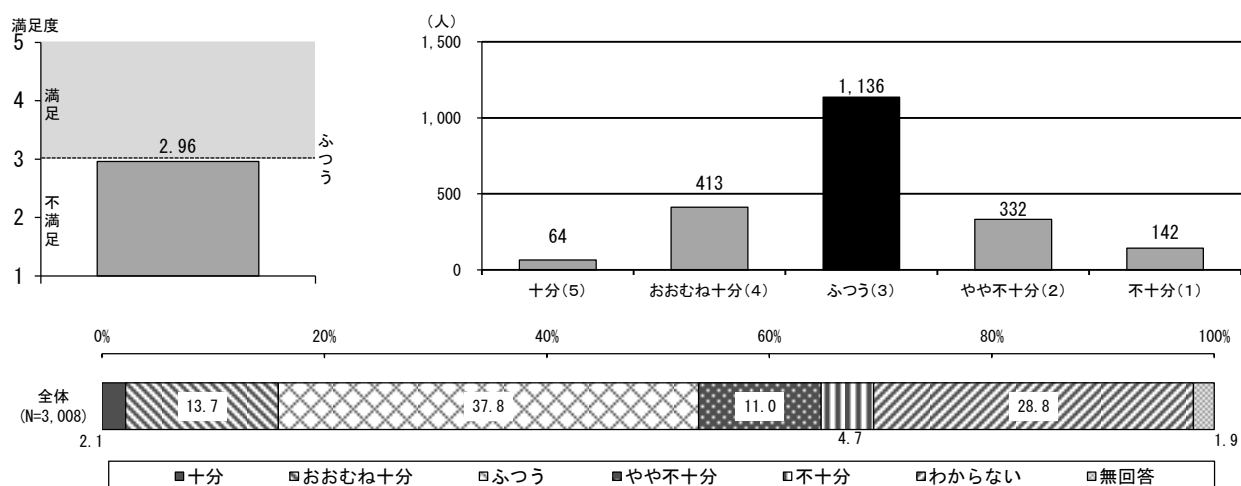
オ 「ウッドファーストあきた」による林業・木材産業の成長産業化

問 1-14 秋田スギ丸太の生産量が増大し、県産材の利用が進んでいる。

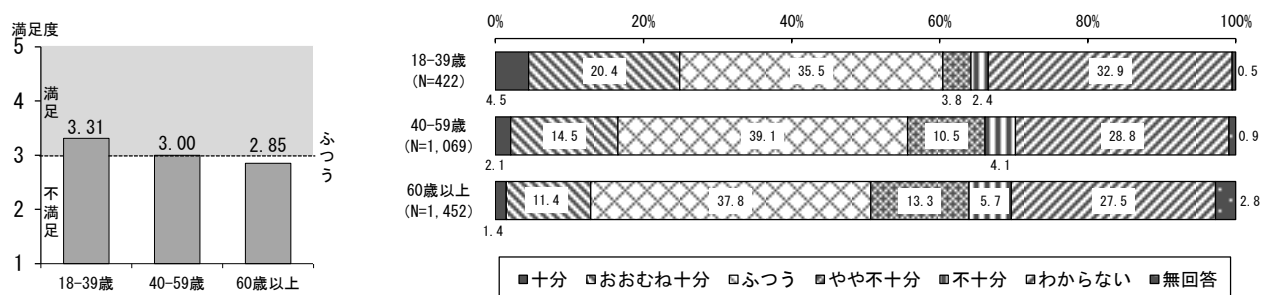
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は 2.96 で、「ふつう」の 3 より 0.04 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 15.8%、「ふつう」は 37.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 15.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 53.6%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.31 であり、不満を感じていない人の割合は 60.4%であった。一方、「60 歳以上」の満足度は 2.85 であり、不満を感じていない人の割合は 50.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 474 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、101 人 (21.3%) から回答があった。

回答の一部

- 生産にコストがかかるため、再造林が進まない。スギで儲かる対策をとって生産拡大する必要がある。(男性/60 歳代/秋田地域)
- ウッドショックの今、もっと増産し、秋田の林業を活性化させるべきだと思います。労働環境を改善しなければ、なり手がいません。(男性/30 歳代/秋田地域)
- 住宅建材としての杉の良さをもっと売り込む必要を感じる。「住宅には秋田杉を」といったキャンペーンなどを実施してはどうか。(男性/40 歳代/北秋田地域)

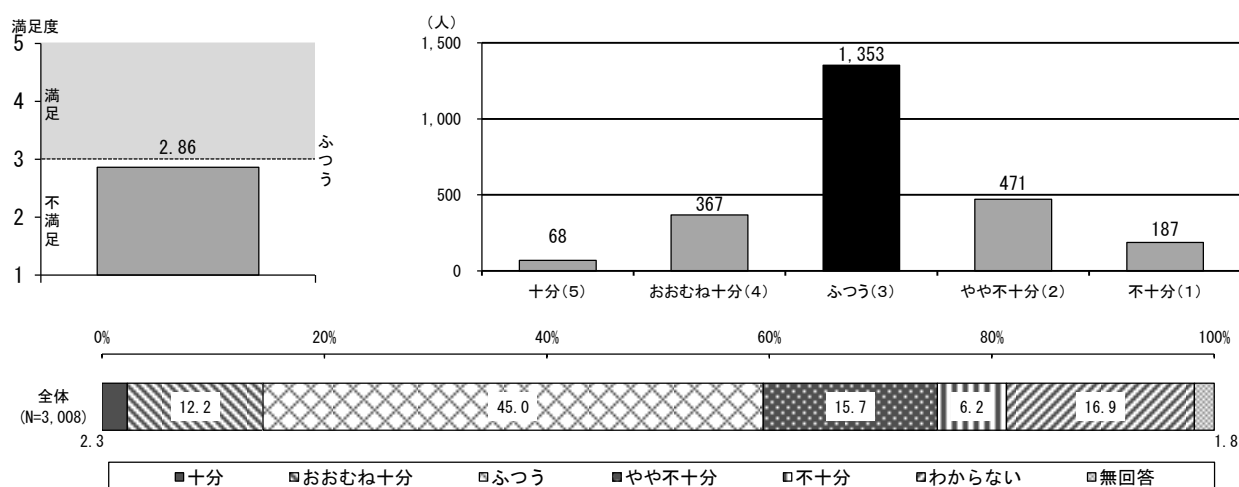
カ つくり育てる漁業と広域浜プランの推進による水産業の振興

問 1-15 ハタハタ、マダイ、ヒラメ、サケなど、県内で獲れた多様な魚が流通・販売されている。

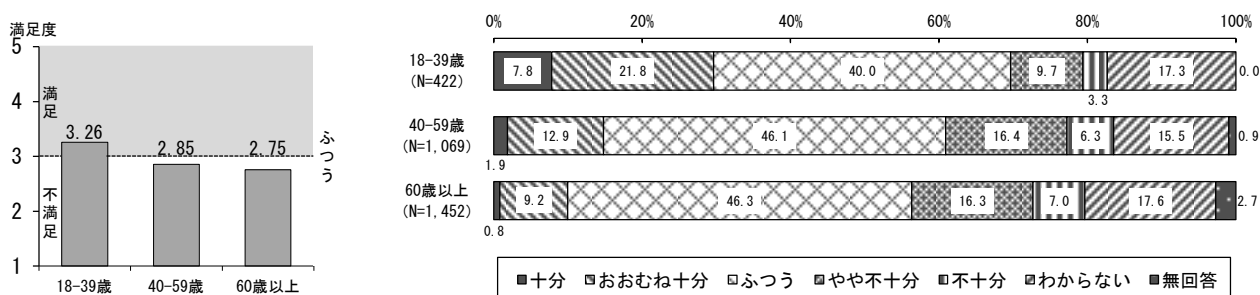
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は 2.86 で、「ふつう」の 3 より 0.14 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 14.5%、「ふつう」は 45.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 21.9%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 59.5%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.26 であり、不満を感じていない人の割合は 69.6%であった。一方、「60 歳以上」の満足度は 2.75 であり、不満を感じていない人の割合は 56.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 658 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、179 人 (27.2%) から回答があった。

回答の一部

- ハタハタの漁獲量の減少はもっと大きな問題として捉えるべきだと思う。思い切った方針が必要だと思う。(男性/20 歳代/秋田地域)
- 通年で安定供給が出来る水産物が少ない。秋田県のブランド魚づくりに向けて養殖する技術が必要。今、他県の人に秋田の魚を聞いても何も思い浮かばないと思う。(男性/40 歳代/平鹿地域)
- 内陸のせい、ハタハタ以外の県内産の魚をあまり見かけることがない。野菜などはスーパーに地産地消コーナーがあるので、魚も秋田県産コーナーを設ければいいと思う。(女性/40 歳代/雄勝地域)

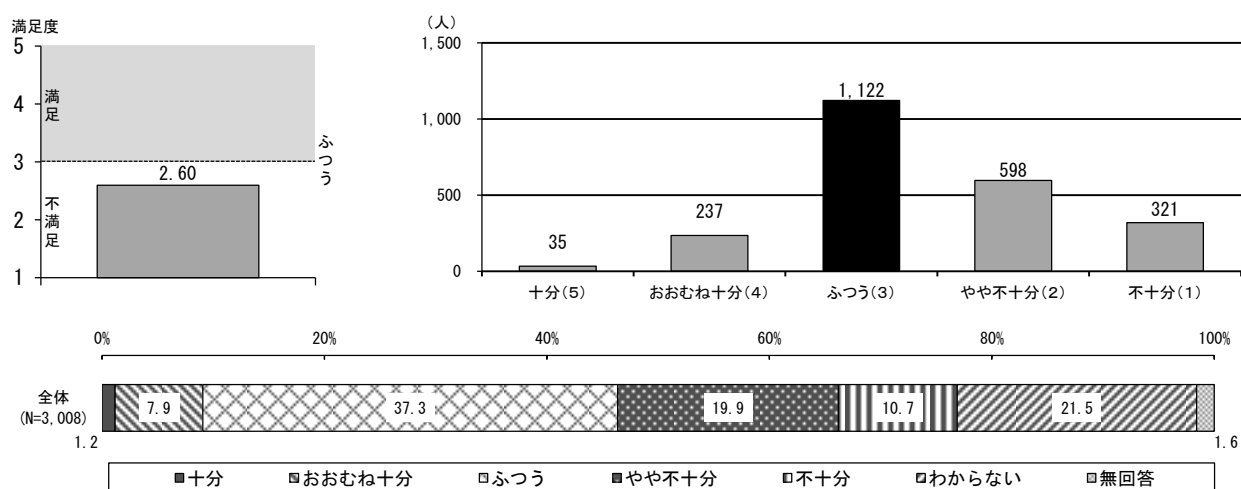
キ 地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり

問 1-16 豊かな農山漁村で生き生きとした暮らしが営まれ、農地・森林を守る活動などが行われている。

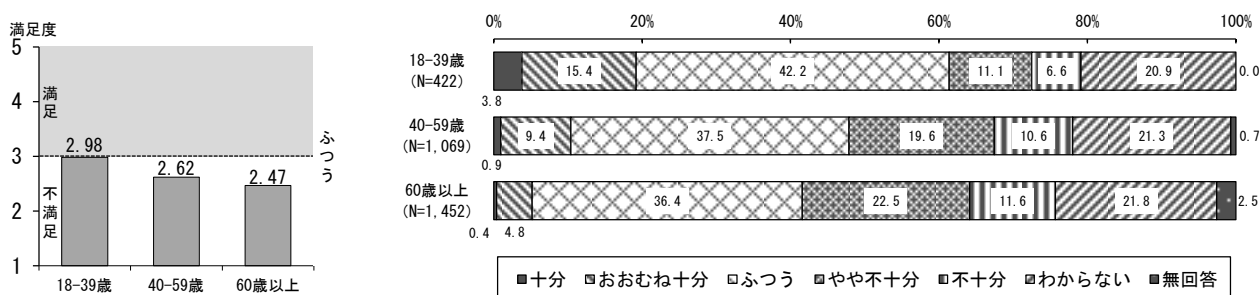
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.60で、「ふつう」の3より0.40低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は9.1%、「ふつう」は37.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は30.6%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は46.4%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.98であり、不満を感じていない人の割合は61.4%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.47であり、不満を感じていない人の割合は41.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した919人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、234人(25.5%)から回答があった。

回答の一部

- 耕作放棄地が目立ってきた。高齢化が進み、後継者也会社勤めのため、両立は難しいという話を聞く。(女性/60歳代/由利地域)
- 林業の縮小や猟師の高齢化、山間部の住人の減少によって、熊や鹿等の生息域が都市部に近づき、獣害等が増えている。(男性/30歳代/平鹿地域)
- 後継者不足。子どもが後継できないなら他の人を公募できるシステムが広がればよい。(女性/40歳代/雄勝地域)

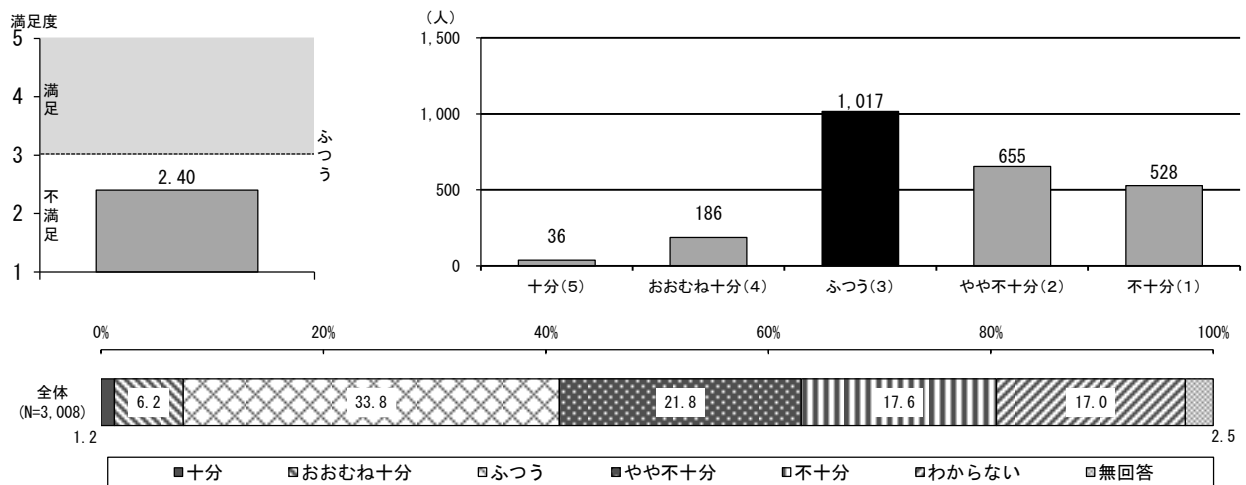
(4) 戦略4 秋田の魅力が際立つ 人・ものの交流拡大戦略について
ア 地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化

問1-17 国内外から観光誘客が進んでいる。

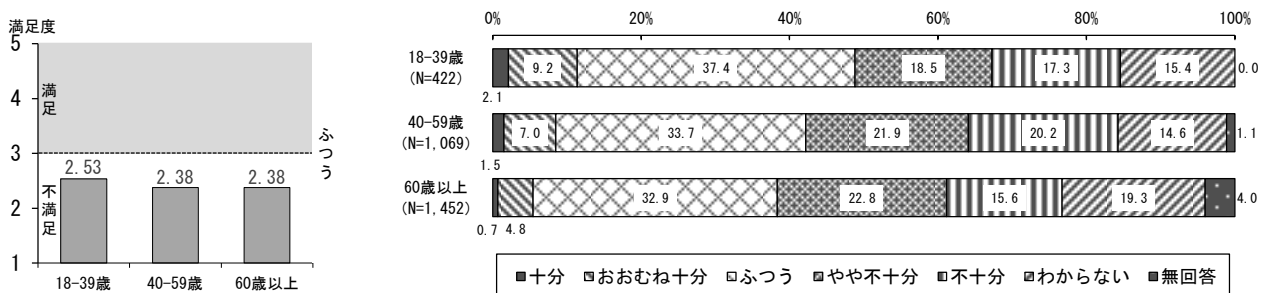
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.40で、「ふつう」の3より0.60低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は7.4%、「ふつう」は33.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は39.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は41.2%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.53であり、不満を感じていない人の割合は48.7%であった。一方、「40～59歳」及び「60歳以上」の満足度は2.38であり、不満を感じていない人の割合は、それぞれ42.2%、38.4%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,183人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、313人（26.5%）から回答があった。

回答の一部

- 自然や食べ物など、秋田の魅力的な部分はあるのに、観光地も廃れているし、欠品が多く新鮮さにも欠けるなど、がっかりする部分が多い。もっと魅力を伝えられる宣伝と、利用しやすい環境を整備すべき。(女性/40歳代/秋田地域)
- 一つの観光地だけで一回の旅行を満足できるような場所はないので、いくつかの場所が連携して取り組んでほしい。(男性/50歳代/雄勝地域)
- 観光客の多くがご年配の方なので、インフルエンサーやY o u T u b e rなどの力を借りれば若者の観光客も増えると思います。(女性/20歳代/秋田地域)

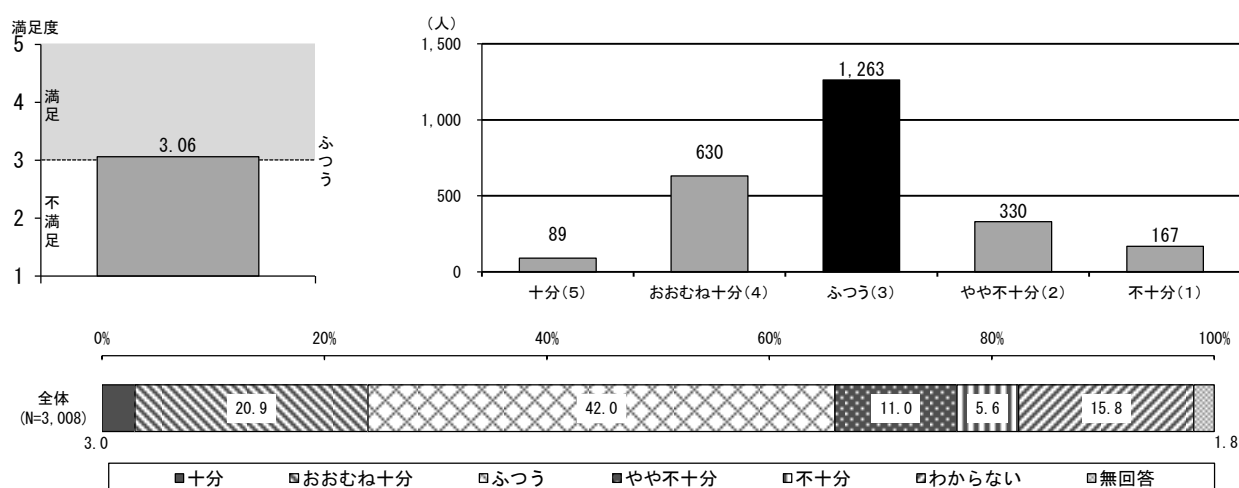
イ 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進

問 1-18 日本酒や発酵食品など、秋田の食品が国内外の市場で盛んに流通している。

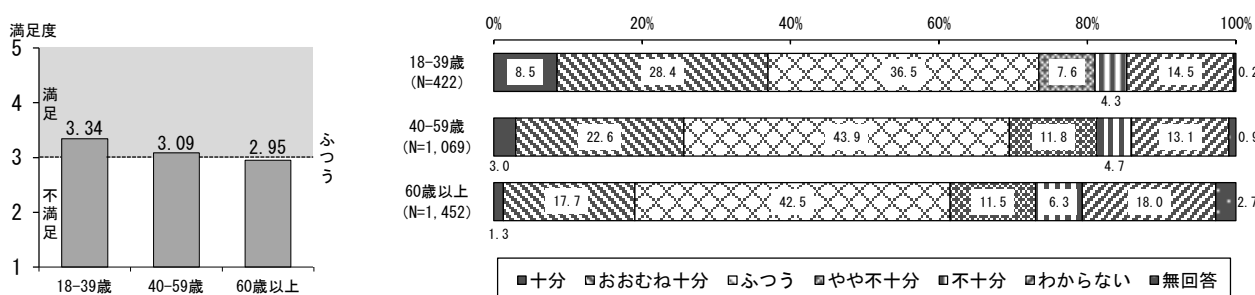
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は 3.06 で、「ふつう」の 3 より 0.06 高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 23.9%、「ふつう」は 42.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 16.6%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 65.9%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.34 であり、不満を感じていない人の割合は 73.4%であった。一方、「60 歳以上」の満足度は 2.95 であり、不満を感じていない人の割合は 61.5%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 497 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、103 人 (20.7%) から回答があった。

回答の一部

- 品質を上げていくと同時に、“ブランド”として大きく捉えてもらえるような宣伝の機会をたくさんつくることできると良いと思う。(女性/30 歳代/北秋田地域)
- インターネットを活用し、もっと海外に P R するべき。(男性/50 歳代/仙北地域)
- 日本酒はかなり力をつけてきましたが、発酵食品まで範囲を広げると他県の動きに押されている感じがするので、強みの日本酒を軸に製造・卸・小売・飲食が一体となった取組が必要だと思います。(男性/60 歳代/秋田地域)

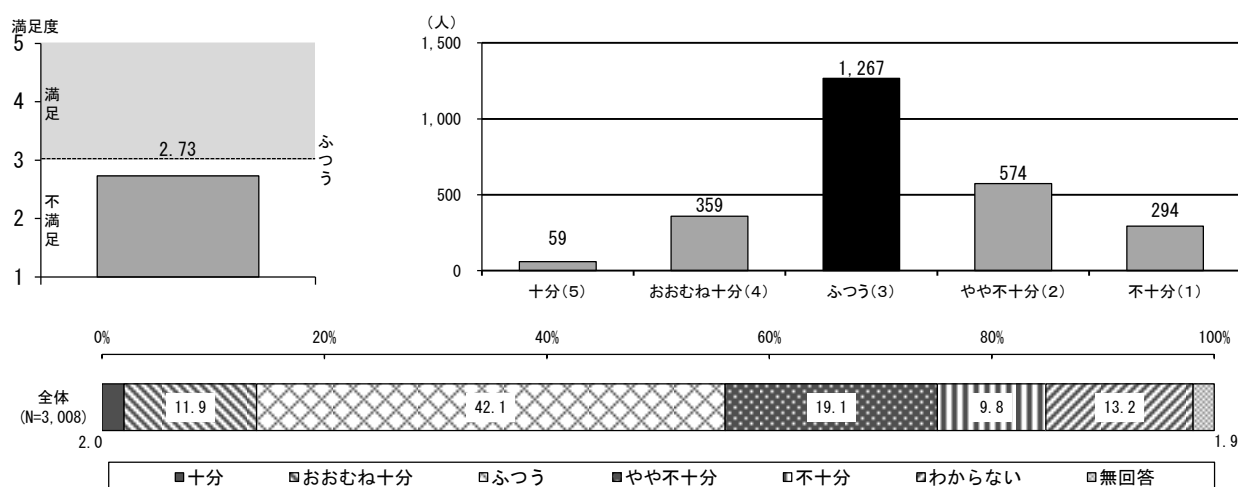
ウ 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出

問 1-19 国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。

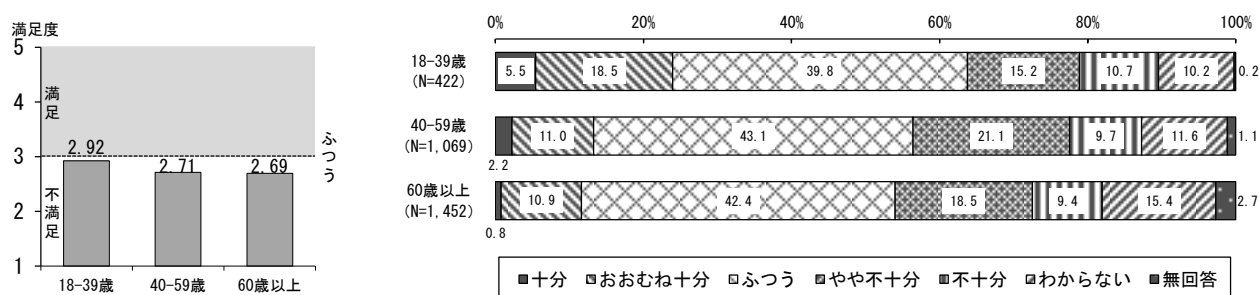
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は 2.73 で、「ふつう」の 3 より 0.27 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 13.9%、「ふつう」は 42.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 28.9%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 56.0%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 2.92 であり、不満を感じていない人の割合は 63.8%であった。一方、「60 歳以上」の満足度は 2.69 であり、不満を感じていない人の割合は 54.1%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 868 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、154 人 (17.7%) から回答があった。

回答の一部

- もっと SNS を利用して若い世代にアピールしたらいい。(女性/40 歳代/平鹿地域)
- 後継者を育て、新しい風を入れてください。今のままではマンネリです。(女性/50 歳代/秋田地域)
- 秋田県民が秋田の自然、文化を知らなすぎ。自信を持ってアピールできていない。(女性/60 歳代/秋田地域)

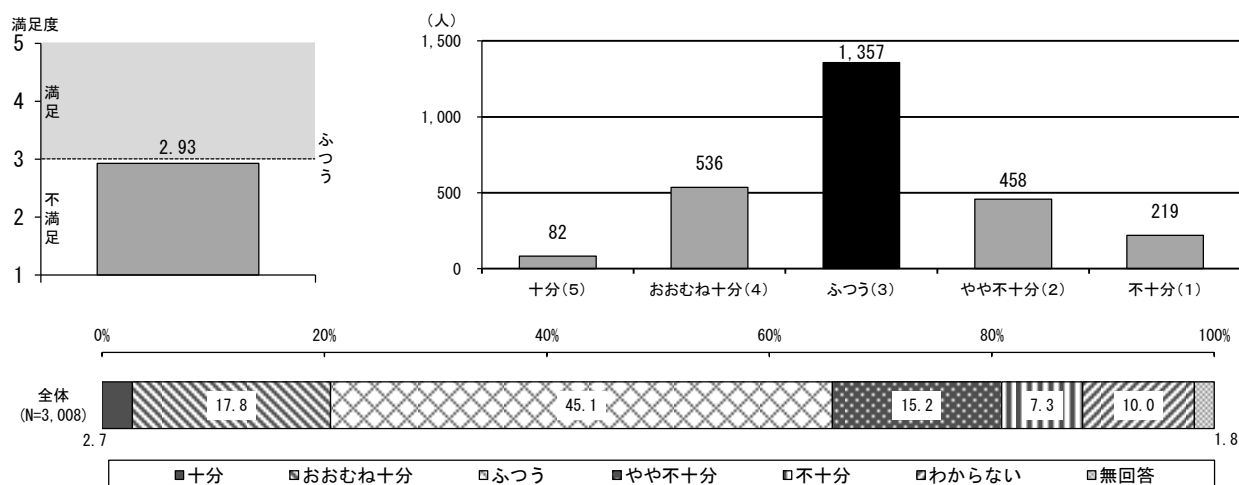
エ 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大

問 1-20 スポーツに関連する様々な活動が盛んに行われ、地域に活気がもたらされている。

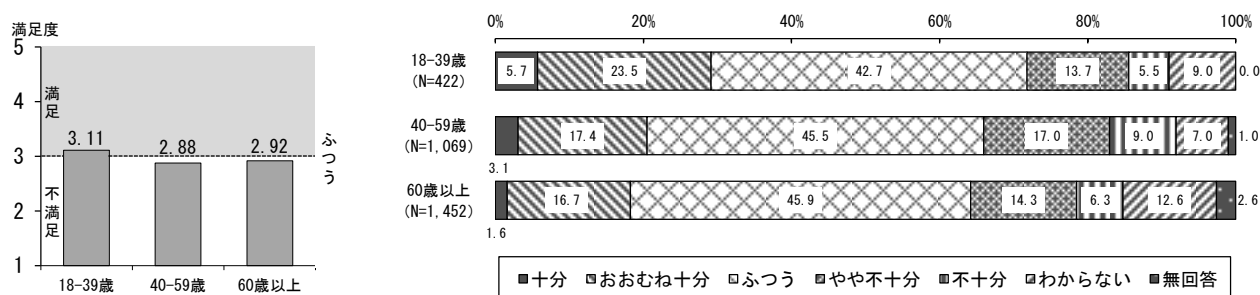
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は 2.93 で、「ふつう」の 3 より 0.07 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 20.5%、「ふつう」は 45.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 22.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 65.6%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.11 であり、不満を感じていない人の割合は 71.9%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 2.88 であり、不満を感じていない人の割合は 66.0%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 677 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、154 人 (22.7%) から回答があった。

回答の一部

- 幼児から大学までのアスリートを育てる環境の整備が遅れている。秋田には指導者がたくさんいるが活用できていない。(男性/60 歳代/仙北地域)
- 個人のスポーツは習慣であり子どもの頃から親しむことが大切。そのためには様々なスポーツクラブを充実させて、子どもの頃から親しむのがよい。(男性/70 歳以上/秋田地域)
- サッカーやバスケットなど、特定のスポーツだけでなく、その他様々なスポーツに触れることができるイベントが行われたらよいと思う。(女性/40 歳代/秋田地域)

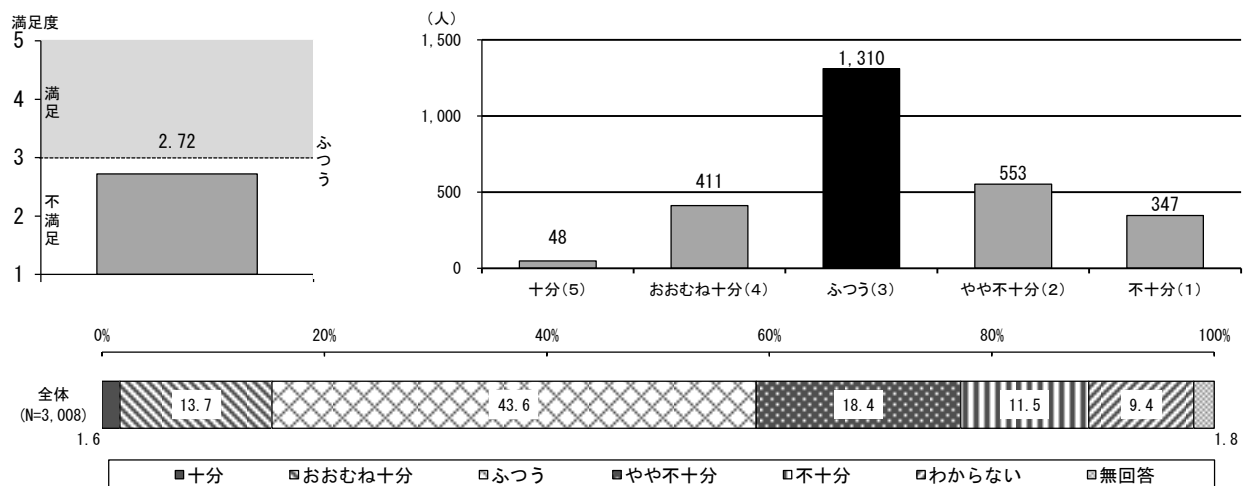
オ 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備

問 1-21 地域間の交流や生活を支える県内の道路ネットワークが整備されている。

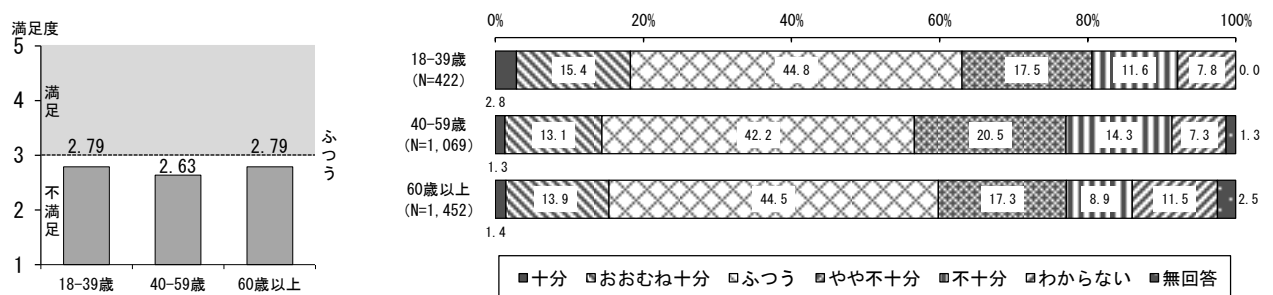
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.72で、「ふつう」の3より0.28低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は15.3%、「ふつう」は43.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は29.9%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は58.9%であった。



年代別では、「18～39歳」及び「60歳以上」の満足度が高く2.79であり、不満を感じていない人の割合は、それぞれ63.0%、59.8%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.63であり、不満を感じていない人の割合は56.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した900人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、196人(21.8%)から回答があった。

回答の一部

- 既にある道路（高速道路を含む）の維持管理が、他県に比べてあまりにも悪すぎる（凸凹等）。(男性/60歳代/由利地域)
- 秋田県の地理的な環境や車社会であることを考えると、道路交通網はもっと迅速に整備してほしいと思います。(男性/40歳代/秋田地域)
- 高速道路はかなり供用されてきたが、県内間を繋ぐ主要な生活道路の整備や改修に力を入れてほしい（冬季安全対策、バイパス化等）。(男性/40歳代/秋田地域)

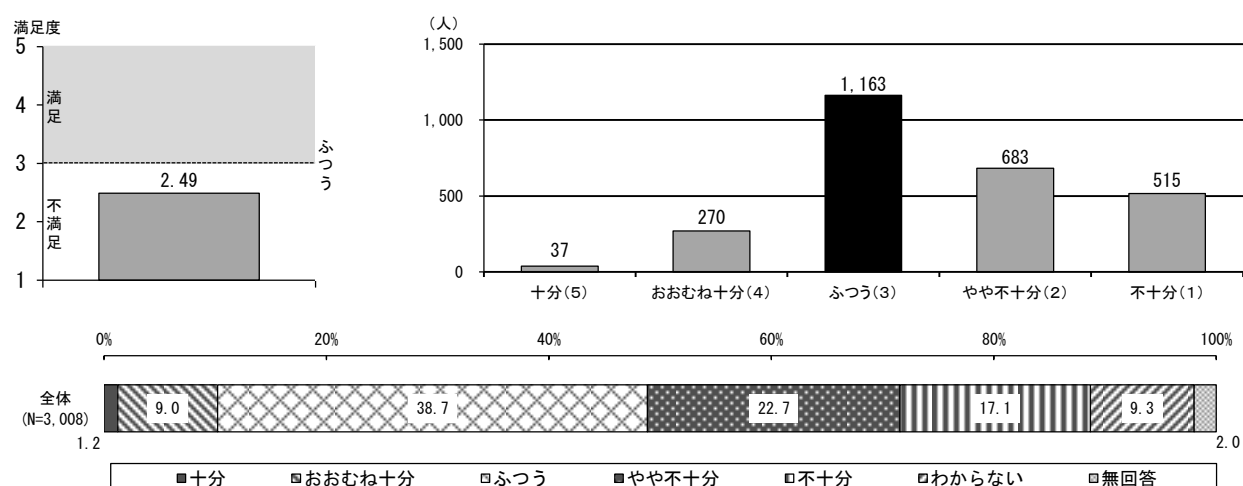
カ 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築

問 1-22 鉄道や航空、地域交通など利便性の高い交通ネットワークが整備されている。

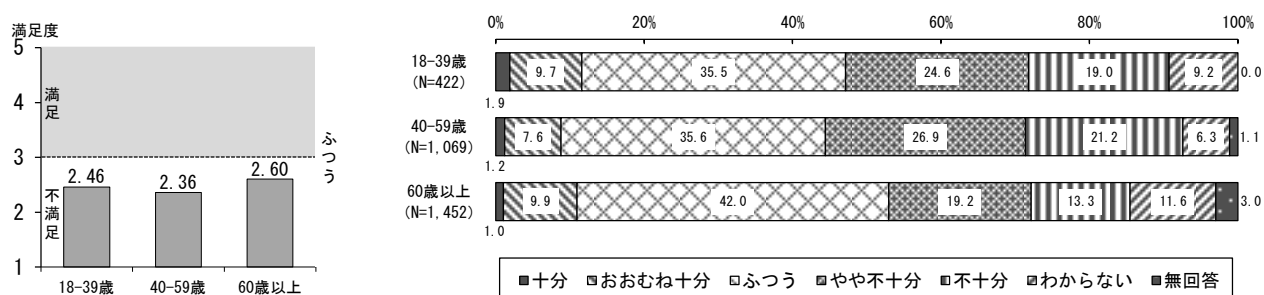
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.49で、「ふつう」の3より0.51低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は10.2%、「ふつう」は38.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は39.8%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は48.9%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.60であり、不満を感じていない人の割合は52.9%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.36であり、不満を感じていない人の割合は44.4%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,198人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、288人(24.0%)から回答があった。

回答の一部

- 県内市町村間の公共交通機関の利便性が悪く、自家用車を利用した移動を行わざるを得ない。(男性/50歳代/由利地域)
- 本数の少なさと便の偏りが気になる。東京以外の都市とのアクセスも良くないと思う。(女性/30歳代/山本地域)
- 秋田新幹線で秋田ー盛岡間の時間がかかることなど、利便性が高いとは言い切れないと思う。(男性/40歳代/秋田地域)

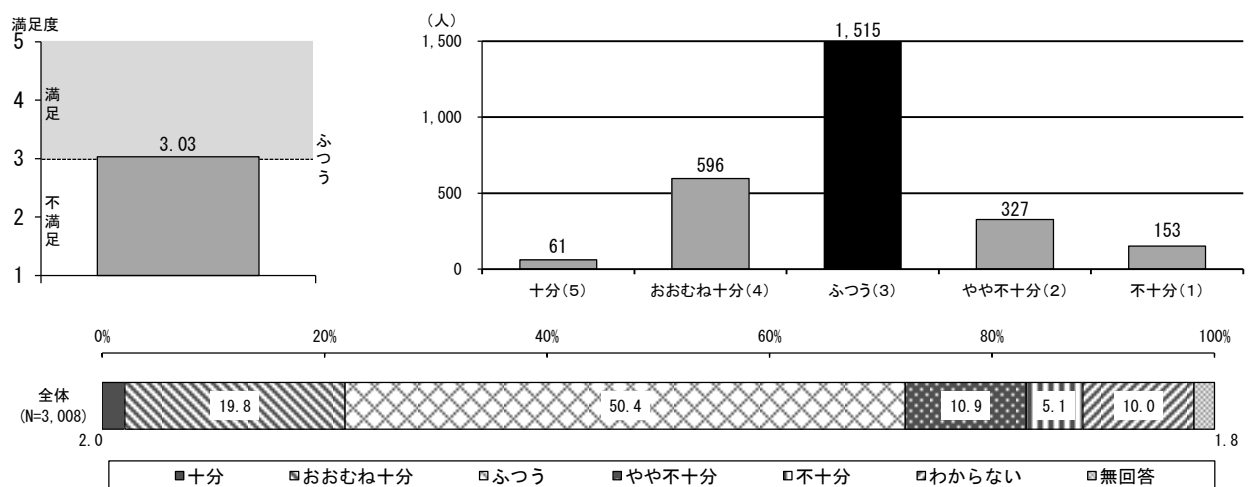
(5) 戦略5 誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略について
ア 健康寿命日本一への挑戦

問 1-23 食事やたばこなど、これまでの生活習慣を見直し、健康づくりに取り組む県民の意識が高まってきている。

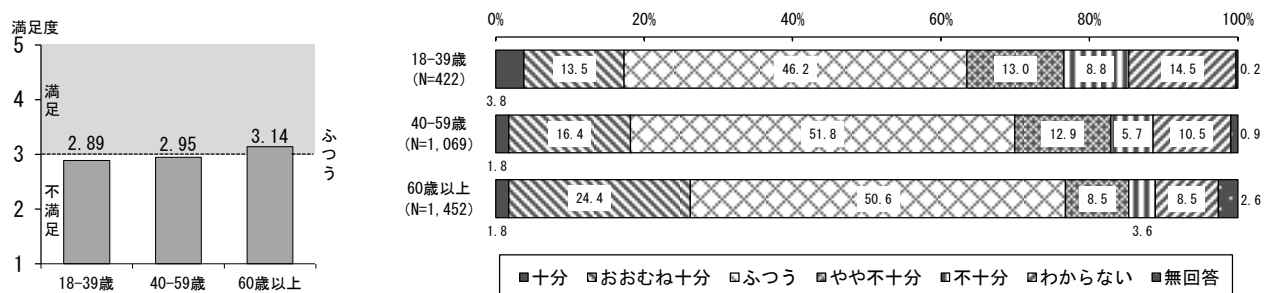
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.03で、「ふつう」の3より0.03高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は21.8%、「ふつう」は50.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は16.0%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は72.2%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く3.14であり、不満を感じていない人の割合は76.8%であった。一方、「18～39歳」の満足度は2.89であり、不満を感じていない人の割合は63.5%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した480人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、99人(20.6%)から回答があった。

回答の一部

- 減塩については周囲をみても積極的に取り組む人もなく、たばこの健康被害ほどの認知度が低いように思います。県の特産品も塩っぱいものが多い。たばここと違い、人に迷惑をかけるものでもないの、個々の意識に訴え続けるしかないと思います。(男性/50歳代/秋田地域)
- 飲食店の殆どが禁煙でありがたいが、出入口に喫煙場所を設けられると出入りする度に不快な思いをする。受動喫煙とならないよう配慮することに県として取り組んでほしい。(女性/40歳代/山本地域)
- CMIはよく見るが、もっと様々な取組がないとなかなか意識は変わらないと思う。(男性/30歳代/秋田地域)

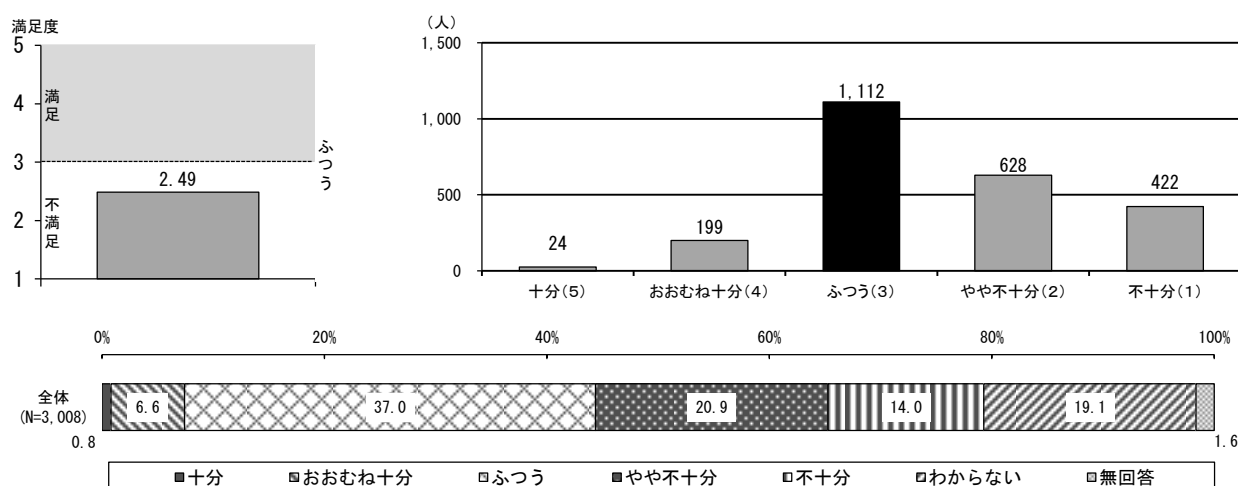
イ 心の健康づくりと自殺予防対策

問 1-24 誰も自殺に追い込まれることのないよう、悩みを抱えた方が相談しやすい環境が整っている。

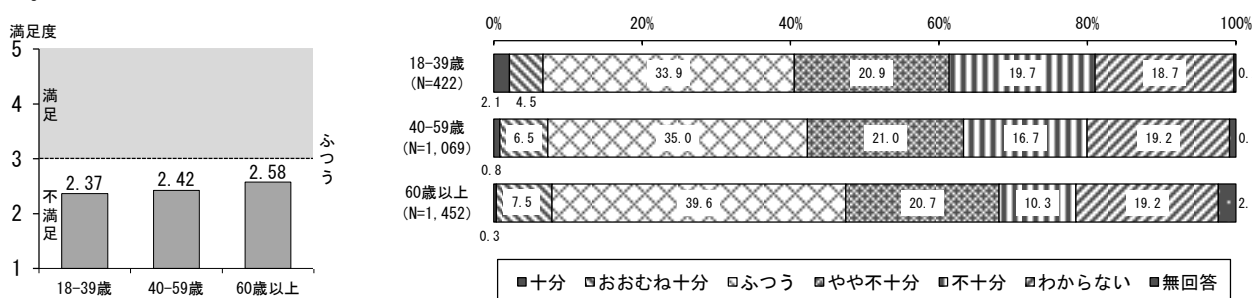
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.49で、「ふつう」の3より0.51低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は7.4%、「ふつう」は37.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は34.9%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は44.4%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.58であり、不満を感じていない人の割合は47.4%であった。一方、「18～39歳」の満足度は2.37であり、不満を感じていない人の割合は40.5%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,050人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、232人 (22.1%) から回答があった。

回答の一部

- 悩み相談コールセンターなど特定の場所の環境は整っているように思いますが、本当に必要なのはやはり当事者のいる学校、職場内の環境整備や相談対応の仕方だと思うので、そこを見直していくべきだと思います。(女性/20歳代/平鹿地域)
- 周囲に感じさせることなく自分の中に抱え込んでしまう前に「苦しい」と口に出して言える環境と、専門的なカウンセリングにつなげられる仕組みが必要です。(女性/40歳代/山本地域)
- 相談する機関はあると思いますが、その手前で周りの人たちが気付くことが重要なので、相談に行く手前の環境づくりのための教育、周知が必要だと思います。(男性/50歳代/仙北地域)

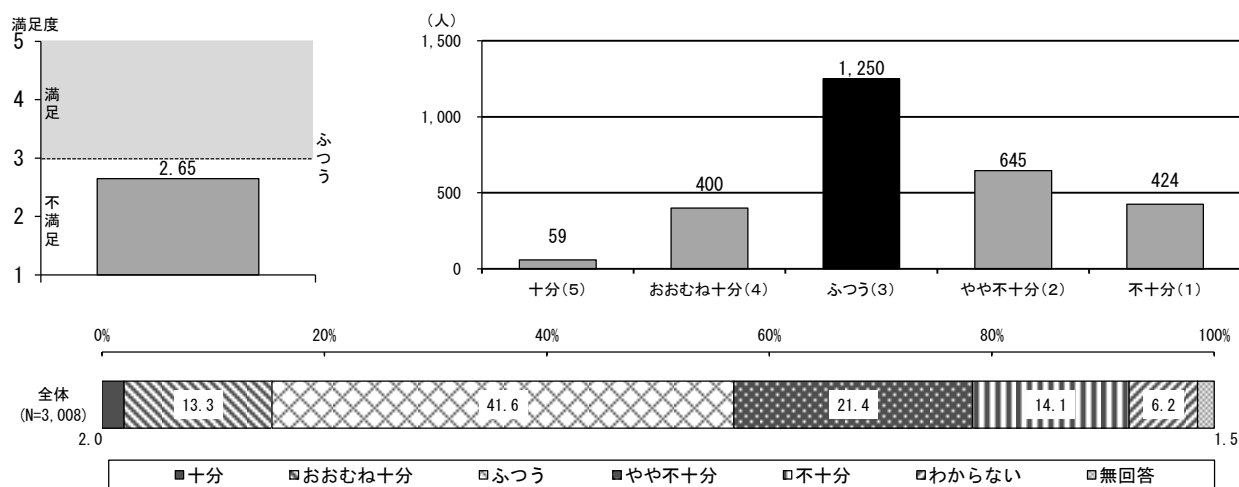
ウ 医療ニーズに対応した医療提供体制の整備

問 1-25 どこに住んでいても、安心して医療を受けられる体制が整っている。

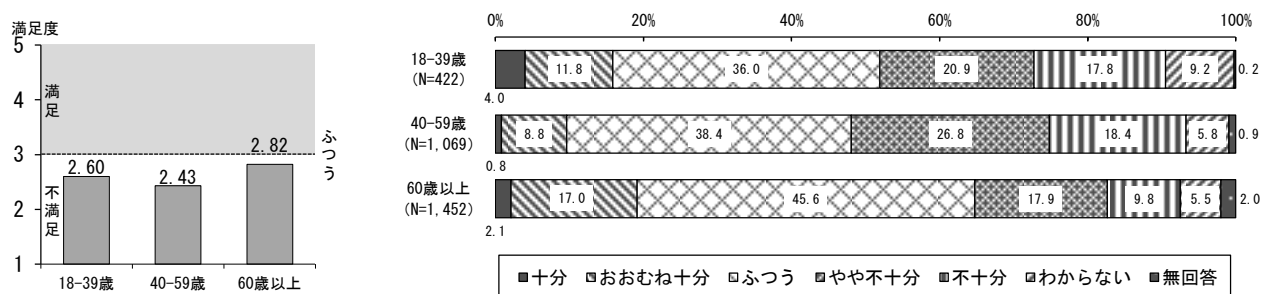
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.65で、「ふつう」の3より0.35低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は15.3%、「ふつう」は41.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は35.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は56.9%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.82であり、不満を感じていない人の割合は64.7%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.43であり、不満を感じていない人の割合は48.0%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,069人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、281人（26.3%）から回答があった。

回答の一部

- 全国的な傾向だが、医療施設・医療従事者は都市部では充足している反面、郡部では不足している。県内でも地域によってはお産が出来ない状態であるなど病院・医師不足は深刻だと思う。医師会等と連携し、特に郡部の医療体制強化に取り組む必要があると思う。（男性／40歳代／秋田地域）
- 診療科目、専門医の不在など、地域間の医療格差がやはりあります。（女性／40歳代／山本地域）
- 開業医を増やすための政策が必要。開業医は減少し、高齢化している。開業医が少ないため、本来入院診療を中心に担うはずの病院で外来を受けざるを得ないため、入院に手が回らず悪循環である。（男性／30歳代／北秋田地域）

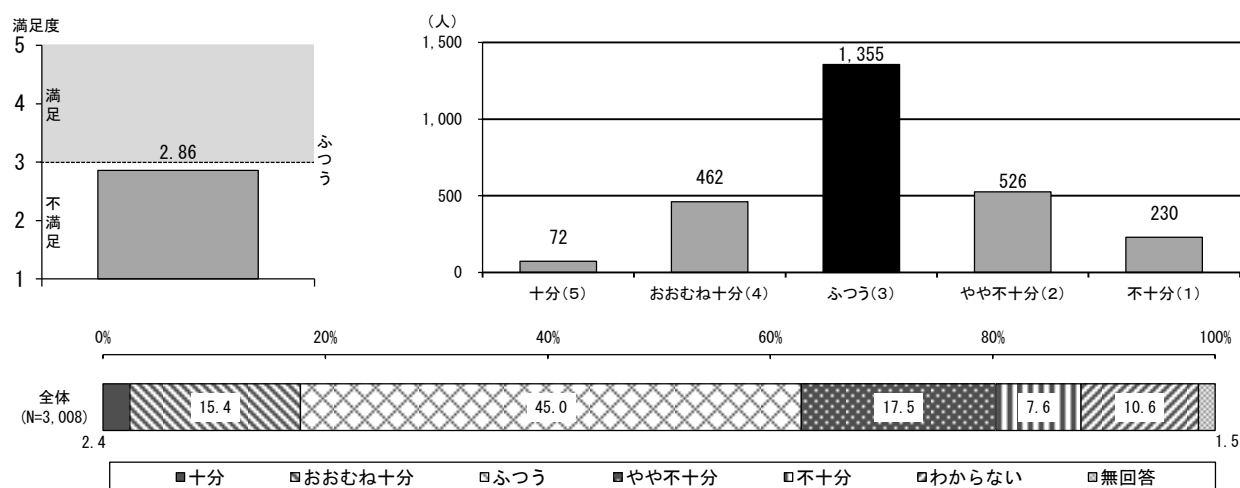
エ 高齢者や障害者等が安全・安心に暮らせる福祉の充実

問 1-26 高齢者や障害がある方などが、住み慣れた地域でニーズに合った介護・福祉サービスを受けることができる。

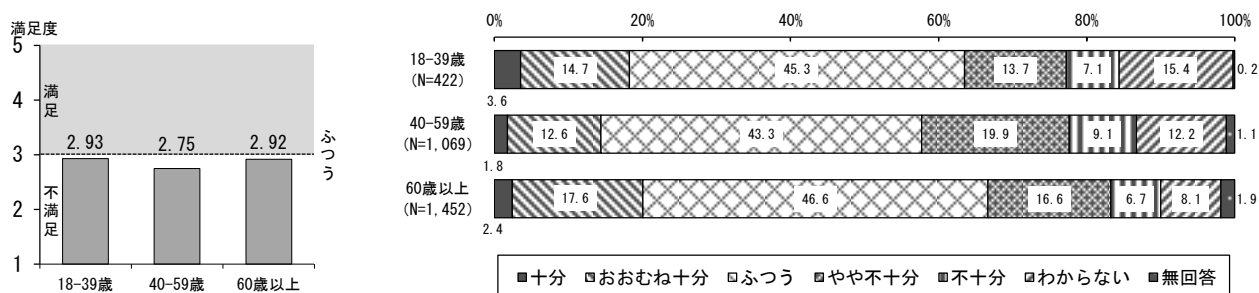
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は 2.86 で、「ふつう」の 3 より 0.14 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 17.8%、「ふつう」は 45.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 25.1%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 62.8%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 2.93 であり、不満を感じていない人の割合は 63.6%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 2.75 であり、不満を感じていない人の割合は 57.7%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 756 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、160 人 (21.2%) から回答があった。

回答の一部

- 障害のある子どもが小さい頃から支援を受けやすくなるようにもっと取り組んでほしい。(女性/30 歳代/北秋田地域)
- 介護職員の人数が不足していると思う。待遇の改善や育成を県が主体となって強く実行すべき。(女性/60 歳代/秋田地域)
- 介護福祉サービスがどこにも混んでいて、住み慣れた地域をやむを得ず離れて、空いている他の地域のサービスを利用する人が多くなってきている。(女性/20 歳代/北秋田地域)

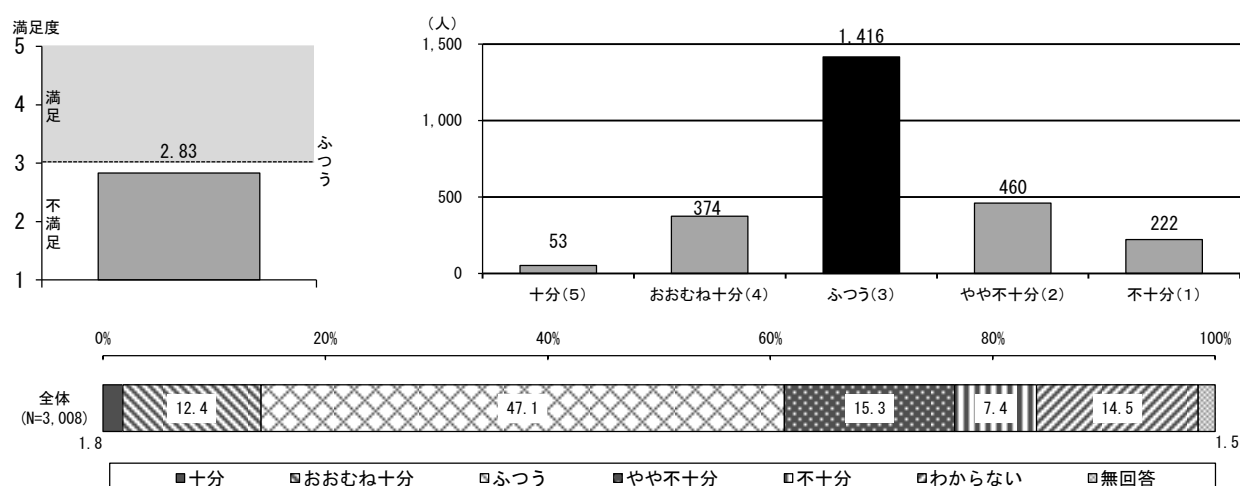
オ 次代を担う子どもの育成

問 1-27 全ての子どもが生まれ育った環境にかかわらず、健やかに育まれる支援体制が整っている。

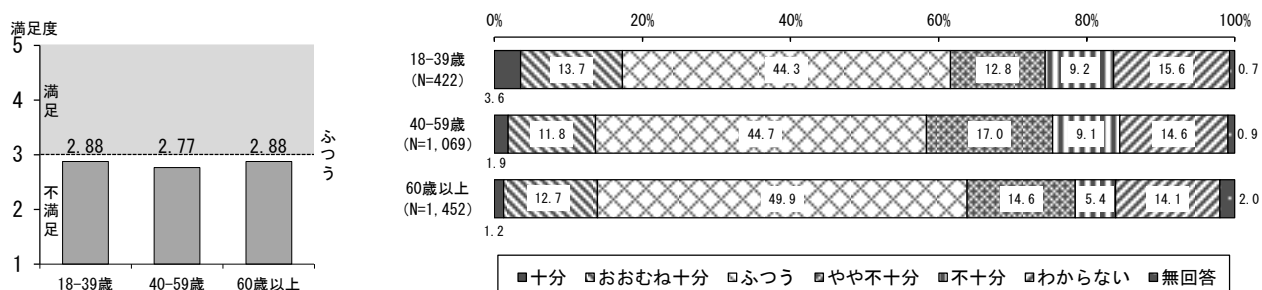
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.83で、「ふつう」の3より0.17低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は14.2%、「ふつう」は47.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は22.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は61.3%であった。



年代別では、「18～39歳」及び「60歳以上」の満足度が高く2.88であり、不満を感じていない人の割合は、それぞれ61.6%、63.8%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.77であり、不満を感じていない人の割合は58.4%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した682人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、130人(19.1%)から回答があった。

回答の一部

- 所得の低い家庭の多くは、子どもを産んで安心して育てられる環境にない。(男性/40歳代/平鹿地域)
- 登下校に1時間かかる地域の子と5分の子が同じ生活水準で学習などできるわけがない。リモートを有効活用すべき。(女性/20歳代/由利地域)
- 児童虐待の認知について、児童相談所の職員では限界があるので警察との連携の強化や職員の権限強化をすべき。(男性/70歳以上/秋田地域)

(6) 戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略について

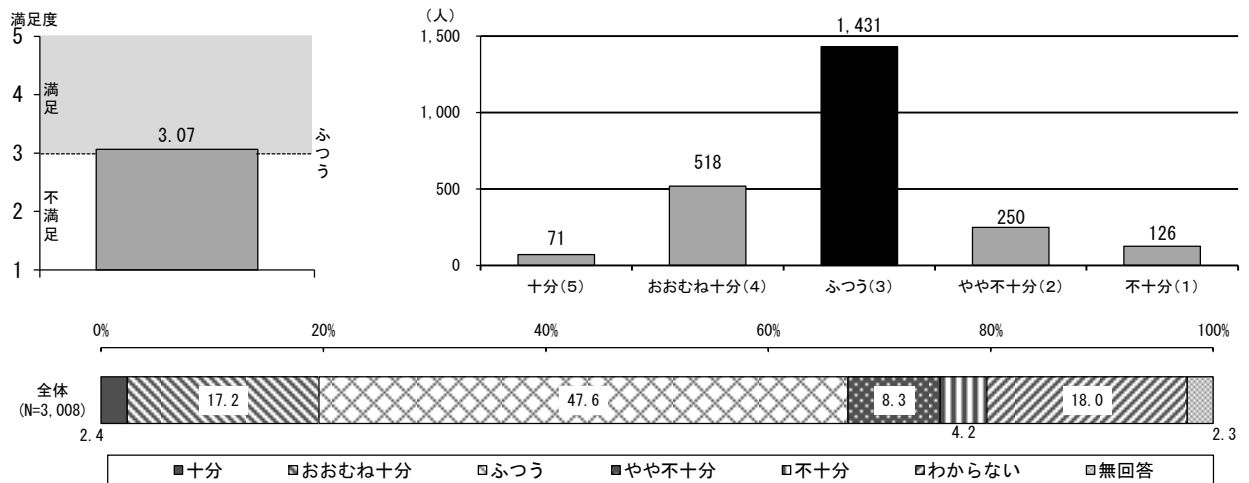
ア 自らの未来を主体的に切り拓き、秋田を支える気概に満ちた人材の育成

問 1-28 学校教育を通じて、ふるさと秋田を愛し支える心が育まれている。

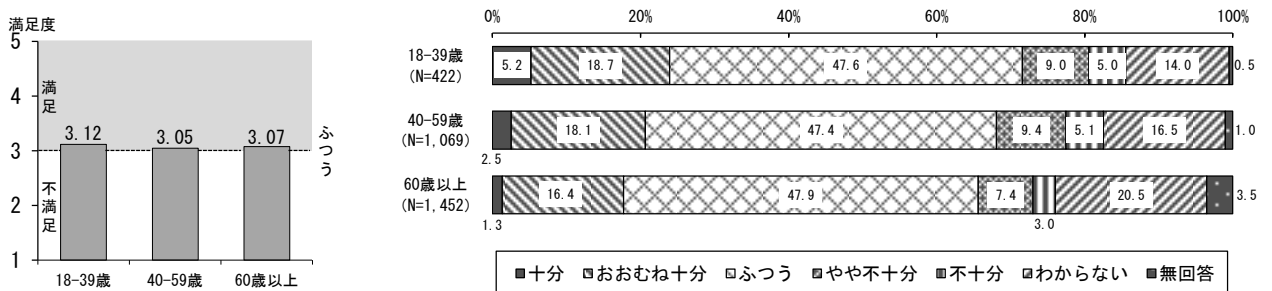
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.07で、「ふつう」の3より0.07高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は19.6%、「ふつう」は47.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は12.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は67.2%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.12であり、不満を感じていない人の割合は71.5%であった。一方、「40～59歳」の満足度は3.05であり、不満を感じていない人の割合は68.0%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した376人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、75人（19.9%）から回答があった。

回答の一部

- 秋田がどのような歴史を歩んできたのか、どのような文化、特産物を持っているのか、そして他県と比べてどこが優れているのかを学ぶ必要があると思う。（男性／20歳代／平鹿地域）
- ふるさと教育は素晴らしいと思うが、大学に進学してもなかなか秋田に帰ってこない子が多い。（男性／40歳代／山本地域）
- 秋田を好きな子どもに育っていれば人口流出を抑えられているのではないのでしょうか。秋田の何が良い？と子どもに聞いても大多数が「自然」と回答するようではダメだと思います。（男性／40歳代／由利地域）

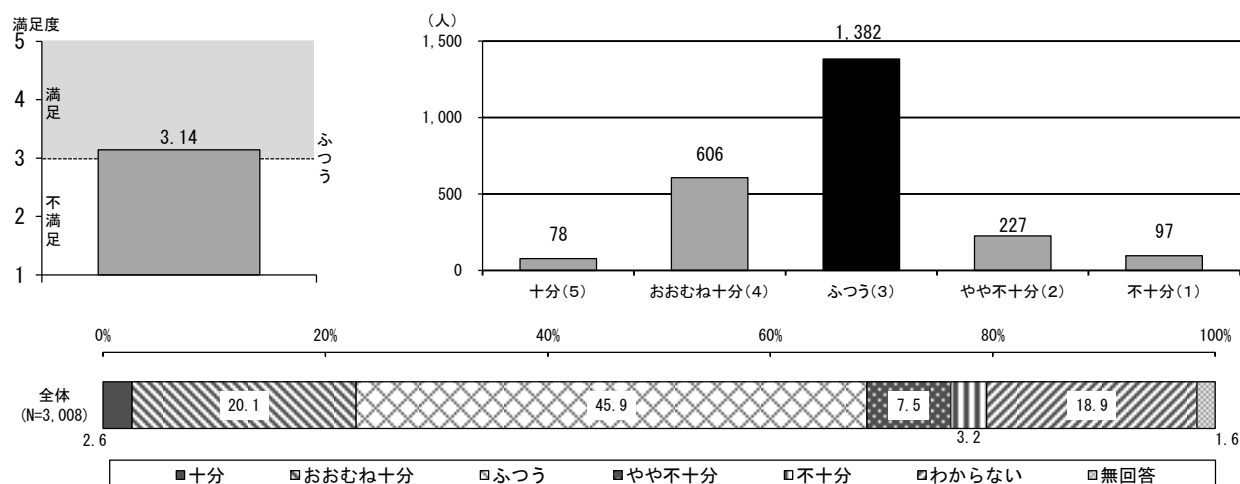
イ 子ども一人一人に応じた教育の充実と確かな学力の定着

問 1-29 学校教育を通じて、意欲的に学ぼうとする態度や、自ら考え、判断し、表現する力が育まれている。

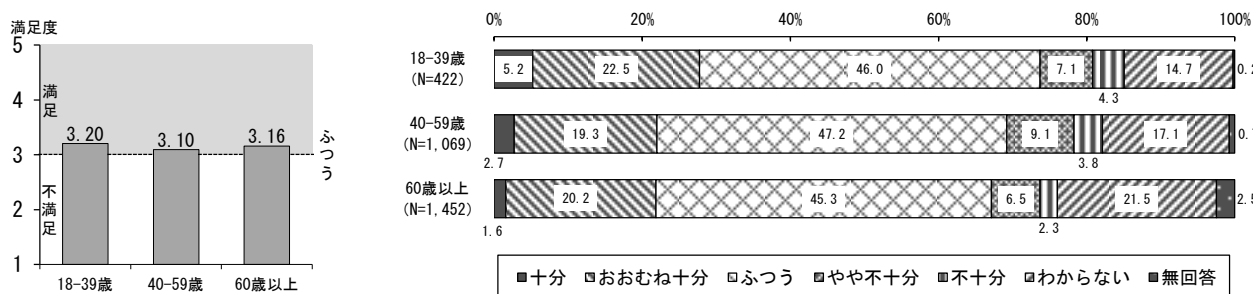
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は 3.14 で、「ふつう」の 3 より 0.14 高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 22.7%、「ふつう」は 45.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 10.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 68.6%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.20 であり、不満を感じていない人の割合は 73.7%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 3.10 であり、不満を感じていない人の割合は 69.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 324 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、66 人 (20.4%) から回答があった。

回答の一部

- 基礎知識をしっかり身につけてこそ意欲であり、自らの考えや判断だと思う。学校は分からないから学びに行く場なのです。「わかりません。」と言えない子どもにも目を向けてほしい。(女性/70 歳以上/北秋田地域)
- 周囲の大人が望む答えを察して表現するのではなく、自分で考え自分の言葉で表現できるよう、その子のストックを増やしてあげることが教育だと思います。(女性/40 歳代/山本地域)
- 県民性なのか教育のせいなのか分からないが、意欲的に学ぼうとする態度や自己表現力が足りないように思う。(男性/50 歳代/仙北地域)

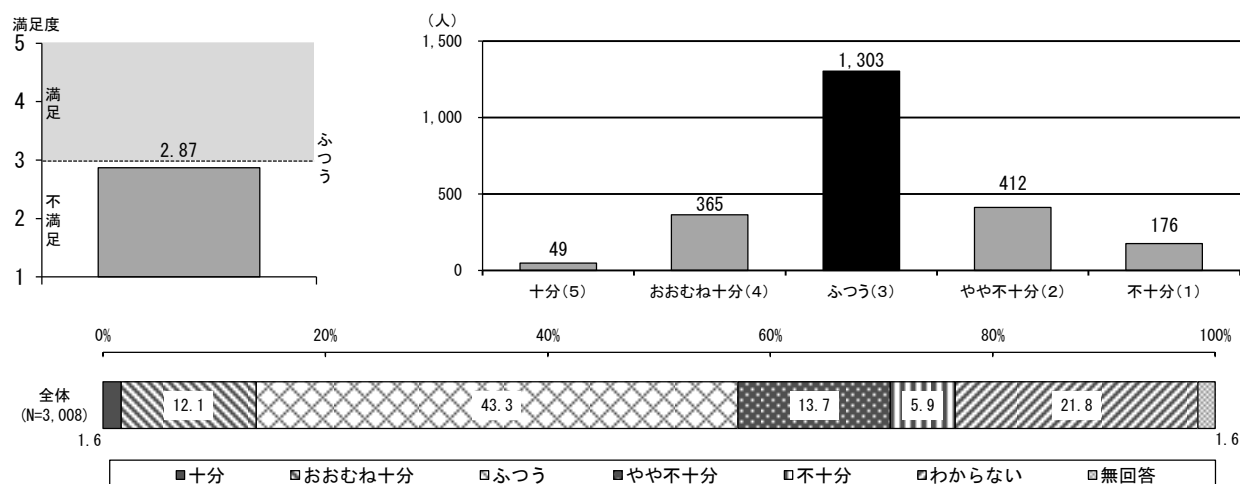
ウ 世界で活躍できるグローバル人材の育成

問 1-30 学校教育を通じて、外国文化を理解しようとする態度や、英語でコミュニケーションをとる能力が育まれている。

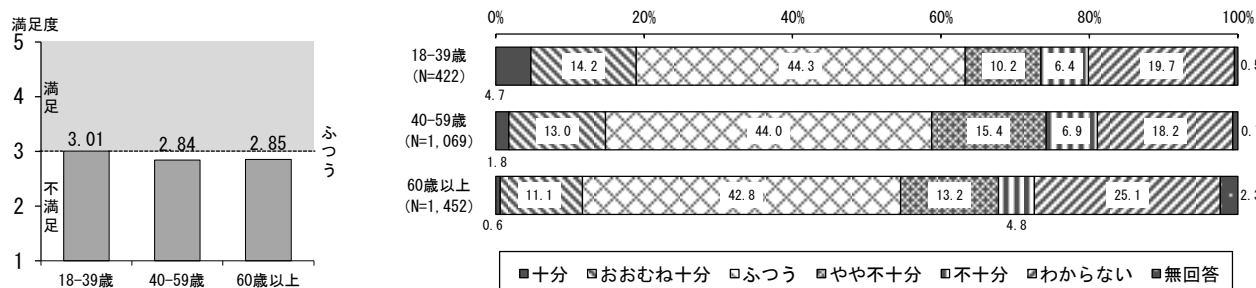
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は 2.87 で、「ふつう」の 3 より 0.13 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 13.7%、「ふつう」は 43.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 19.6%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 57.0%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.01 であり、不満を感じていない人の割合は 63.2%であった。一方、「40 歳～59 歳」の満足度は 2.84 であり、不満を感じていない人の割合は 58.8%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 588 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、86 人 (14.6%) から回答があった。

回答の一部

- キャンプなどがあるようだが、場所が遠く利用しづらい。授業でできたらよいのではと思う。(女性/40 歳代/北秋田地域)
- 日本語を理解し、表現・議論することで、はじめて英語でもコミュニケーションをとることができると思うので、国語教育にも力を入れてほしい。(男性/60 歳代/由利地域)
- 英語だけでなく多言語を自由に学べる環境が必要と考えます。(女性/20 歳代/由利地域)

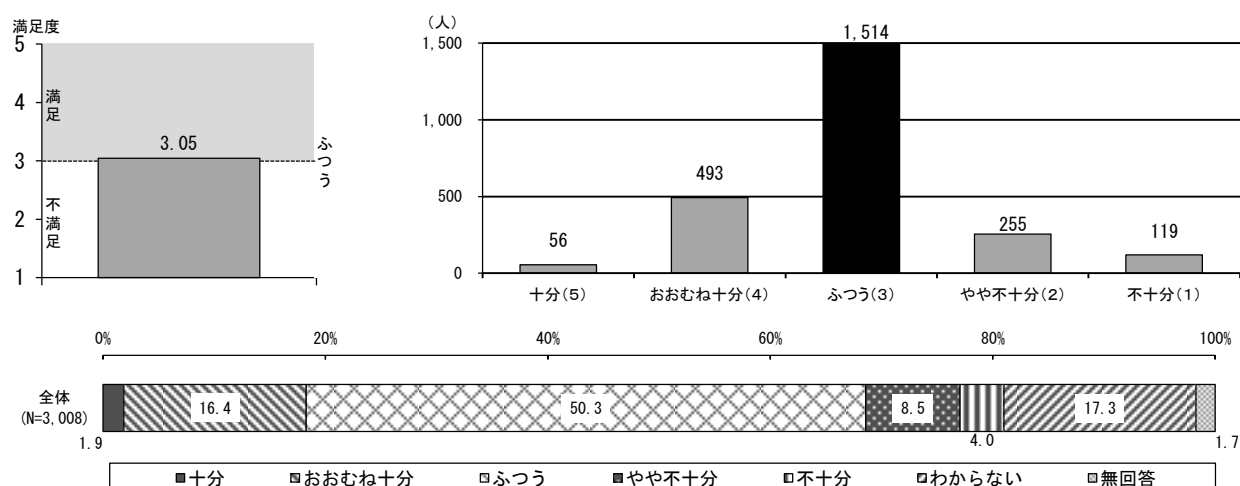
エ 豊かな人間性と健やかな体の育成

問 1-31 学校教育を通じて、他人への思いやりなどの豊かな人間性と健やかな体が育まれている。

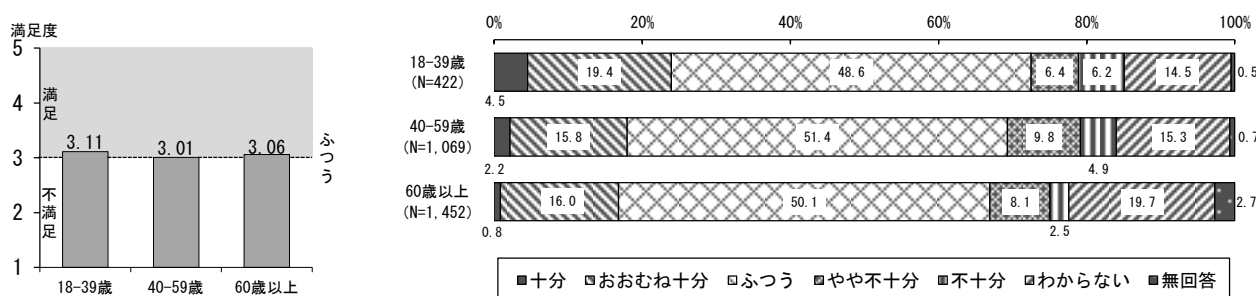
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は 3.05 で、「ふつう」の 3 より 0.05 高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 18.3%、「ふつう」は 50.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 12.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 68.6%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.11 であり、不満を感じていない人の割合は 72.5%であった。一方、「40～59 歳」の満足度は 3.01 であり、不満を感じていない人の割合は 69.4%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 374 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、80 人 (21.4%) から回答があった。

回答の一部

- 他人への思いやり、豊かな人間性、健やかな体を育むことは家庭、地域、友人など日常の全てに関わることであり、学校教育はその一部を担っているにすぎません。(男性/60 歳代/由利地域)
- 体育の授業が運動を素直に楽しめるようなカリキュラムではなかったと感じる。また、自分の学校ではカウンセラーが常駐していたが、あまり利用されていないようだった。気軽に利用できる仕組みや意識づくりができれば素晴らしい。(男性/30 歳代/秋田地域)
- 身体は大きくなっているかもしれないが、体力や筋力、運動能力は見えて残念なことが多い。他者への気配りや協調性を持った子もいるが、そうでない子も多にいる。それを身をもって学ぶ機会が昔より少ない。(男性/40 歳代/鹿角地域)

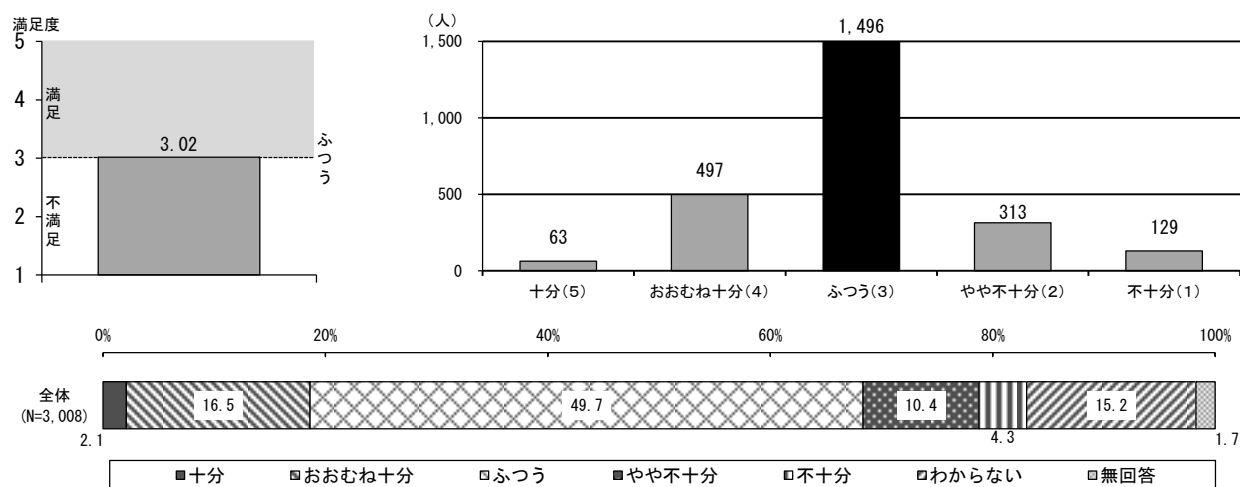
オ 子どもの成長を支える魅力的で良質な学びの場づくり

問 1-32 学校・家庭・地域が連携し、社会全体で子どもたちの成長を支えていく体制が整備されている。

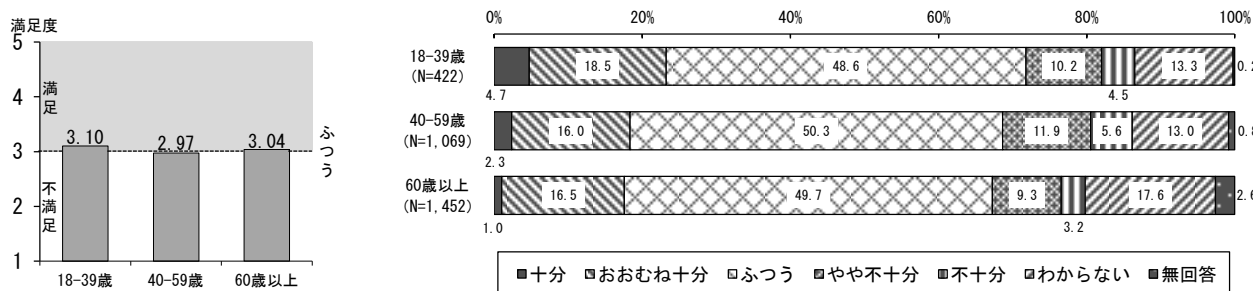
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は 3.02 で、「ふつう」の 3 より 0.02 高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 18.6%、「ふつう」は 49.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 14.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 68.3%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.10 であり、不満を感じていない人の割合は 71.8%であった。一方、「40 歳～59 歳」の満足度は 2.97 であり、不満を感じていない人の割合は 68.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 442 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、84 人 (19.0%) から回答があった。

回答の一部

- 地域とのかかわりが以前より少なくなっていると思う。(女性/50 歳代/由利地域)
- 学校と家庭は結びつきが強いように思われるが、学校と地域のつながりが弱いように思う。地域住民全体が子ども達と関わることができる機会があると良いと思う。(女性/30 歳代/北秋田地域)
- 最近は子どもに挨拶をしても不審者扱いされかねないので、どこまで他人の子どもに関わっていいのかわかりません。その意味で、子どもを守る体制が崩壊しつつあるのではないのでしょうか。(男性/50 歳代/仙北地域)

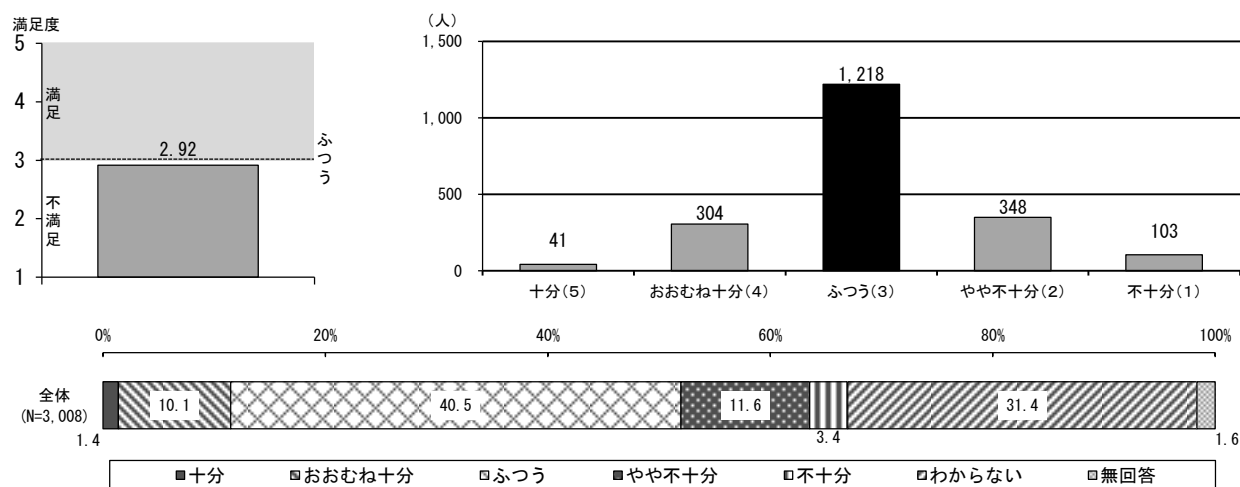
カ 地域社会と産業の活性化に資する高等教育機関の振興

問 1-33 県内の大学等で、地域の活性化につながる教育・研究・社会貢献活動が行われている。

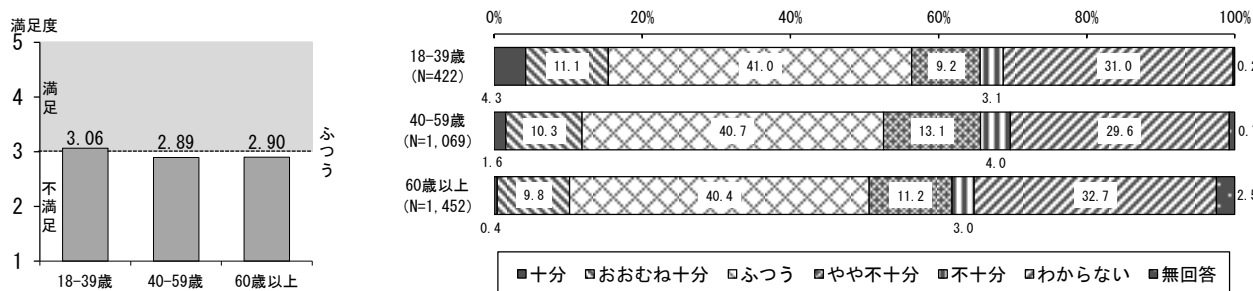
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は 2.92 で、「ふつう」の 3 より 0.08 低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は 11.5%、「ふつう」は 40.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は 15.0%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は 52.0%であった。



年代別では、「18～39 歳」の満足度が最も高く 3.06 であり、不満を感じていない人の割合は 56.4%であった。一方、「40 歳～59 歳」の満足度は 2.89 であり、不満を感じていない人の割合は 52.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 451 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、71 人 (15.7%) から回答があった。

回答の一部

- 以前よりもいろいろな活動が行われるようになってきたと思いますが、そもそも大学の数が多くないために、若者の県外流出が起こってしまうことが残念です。(男性/40 歳代/秋田地域)
- 具体的にどのような研究や社会貢献活動が行われているのか分からない。(男性/40 歳代/山本地域)
- 県内の大学等はほとんどが秋田市にあるため、地域活性化という意味では不十分。(男性/50 歳代/仙北地域)

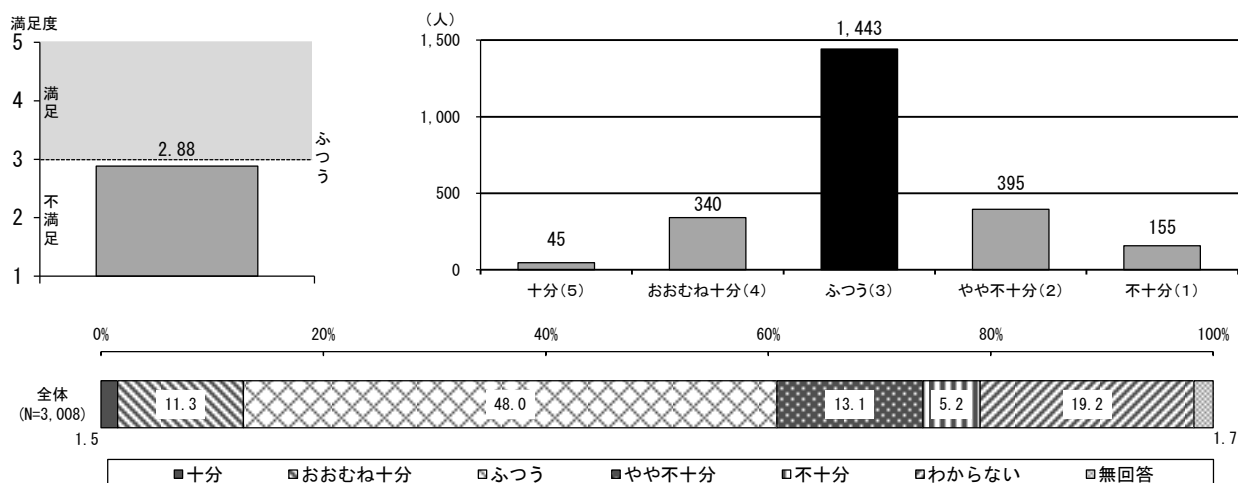
キ 地域を元気にする住民参加の学びの場と芸術・文化に親しむ機会の提供

問 1-34 県民の多様な生涯学習の機会や芸術文化に触れる機会が提供されている。

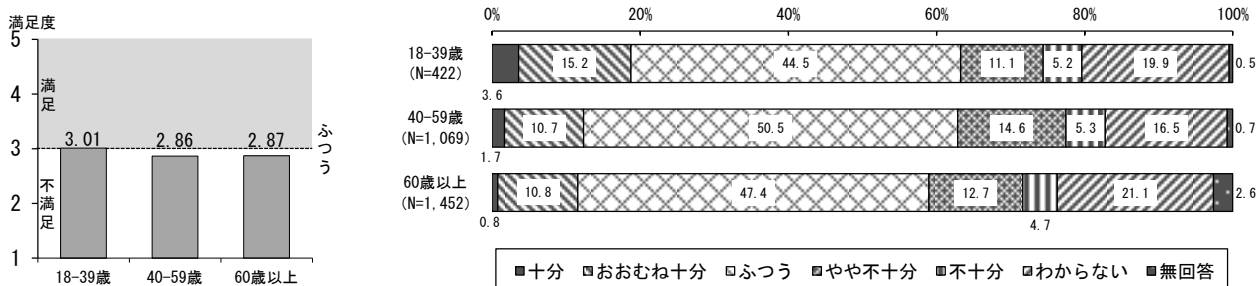
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.88で、「ふつう」の3より0.12低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は12.8%、「ふつう」は48.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は18.3%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は60.8%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.01であり、不満を感じていない人の割合は63.3%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.86であり、不満を感じていない人の割合は62.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した550人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、80人（14.5%）から回答があった。

回答の一部

- 県の主要な文化施設が秋田市に集中し過ぎている。（男性／70歳以上／平鹿地域）
- 文化や芸術を担い、広く発信しようとする気持ちや意気込みが少し足りないように思う。（女性／30歳代／北秋田地域）
- 学びの場が提供されていても、参加できる機会を増やさなければ意味がないように思います。コロナ禍で施設利用が減っているようですが、ニーズの変化に対応できているのでしょうか。（男性／50歳代／秋田地域）

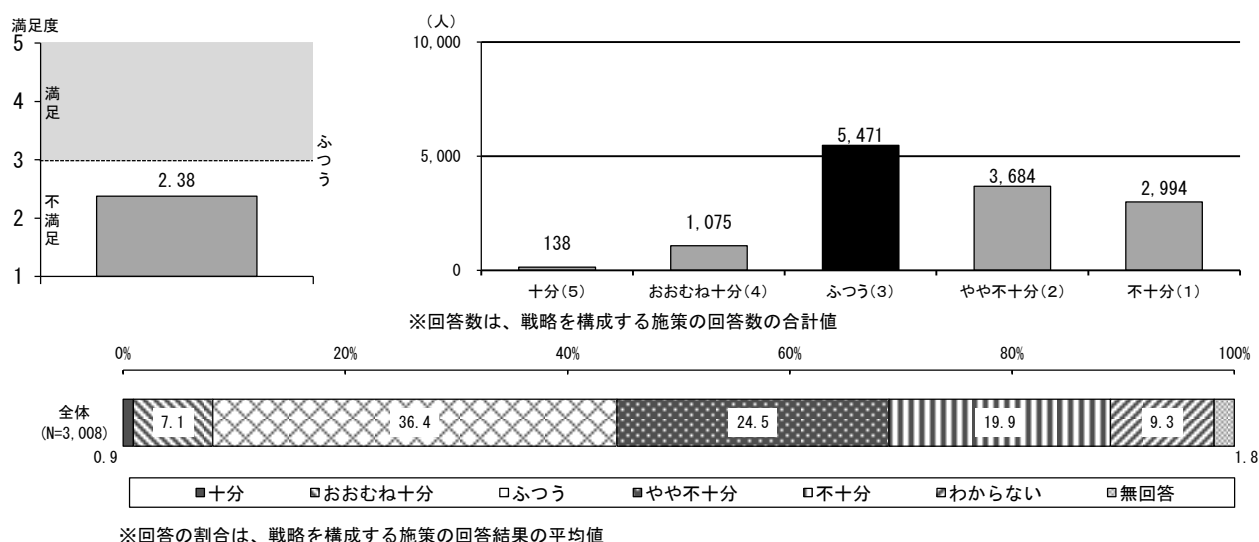
2 （参考）各戦略の施策に関連する事柄についての満足度の平均値

「1 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度」について、戦略ごとに平均値を計算した結果は次のとおりである。

戦略1 秋田の未来につながるふさと定着回帰戦略（問1-1～問1-5）

5段階評価の満足度の平均値は2.38で、「ふつう」の3より0.62低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

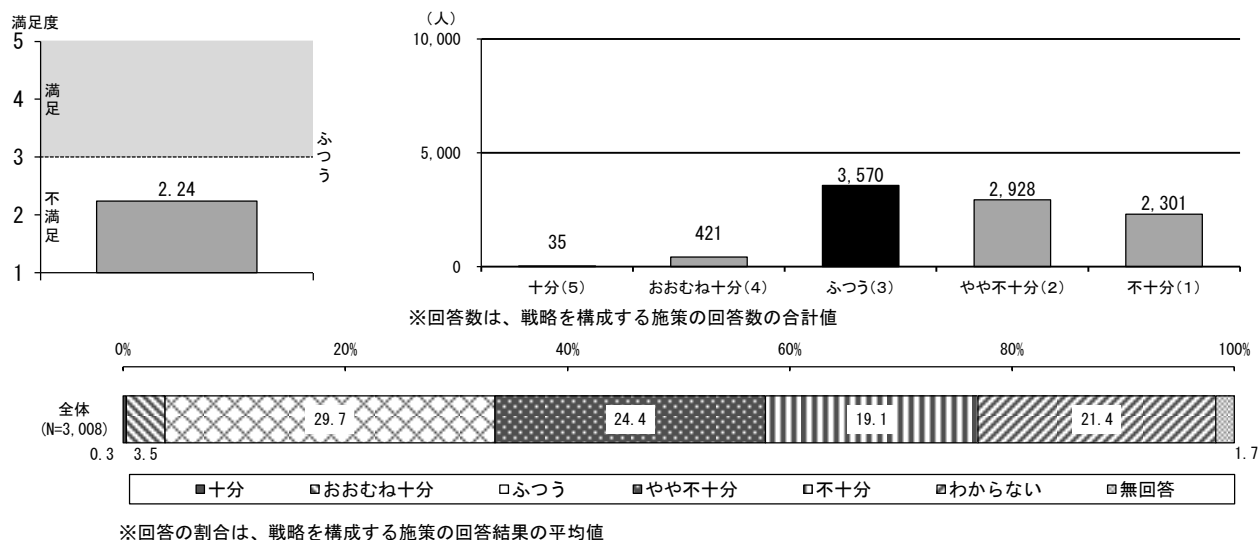
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は8.0%、「ふつう」は36.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は44.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は44.4%であった。



戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略（問1-6～問1-9）

5段階評価の満足度の平均値は2.24で、「ふつう」の3より0.76低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

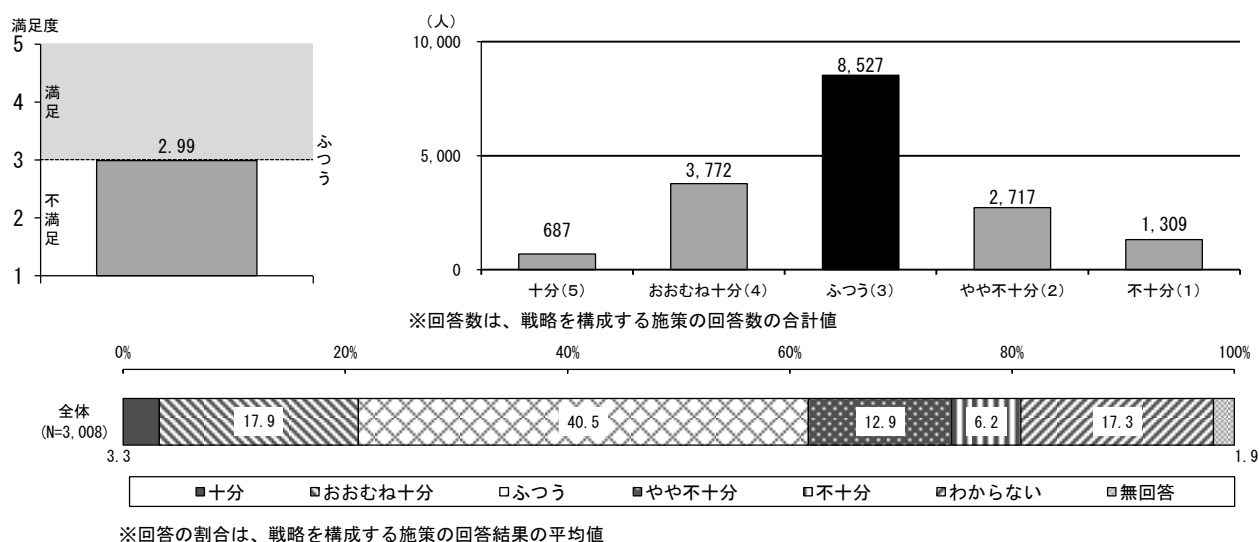
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は3.8%、「ふつう」は29.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は43.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は33.5%であった。



戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略（問1-10～問1-16）

5段階評価の満足度の平均値は2.99で、「ふつう」の3より0.01低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

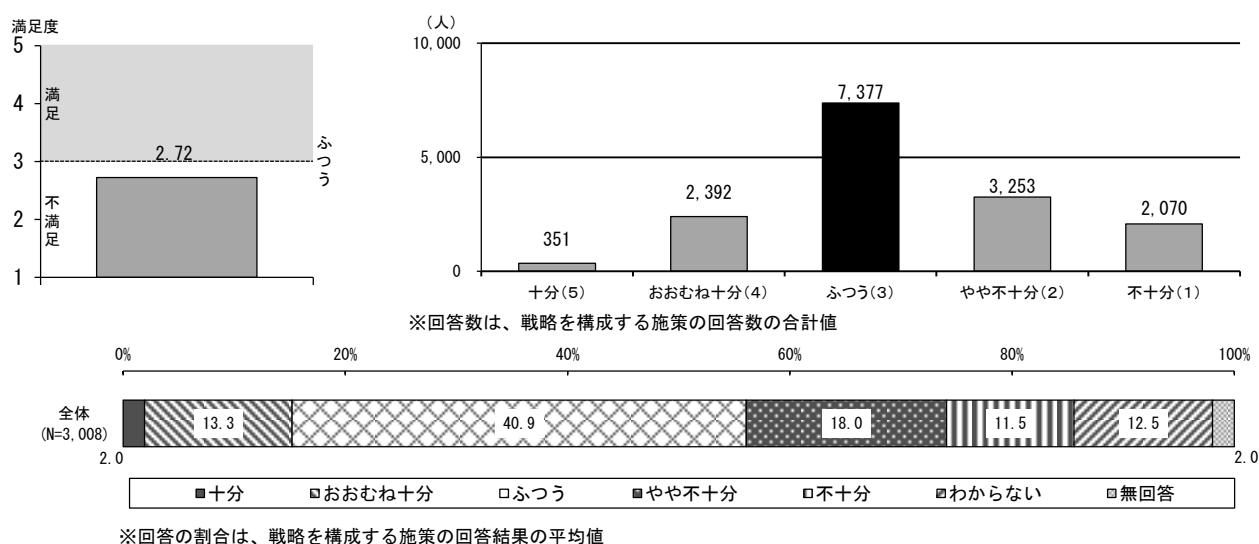
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は21.2%、「ふつう」は40.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は19.1%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は61.7%であった。



戦略4 秋田の魅力が際立つ 人・ものの交流拡大戦略（問1-17～問1-22）

5段階評価の満足度の平均値は2.72で、「ふつう」の3より0.28低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

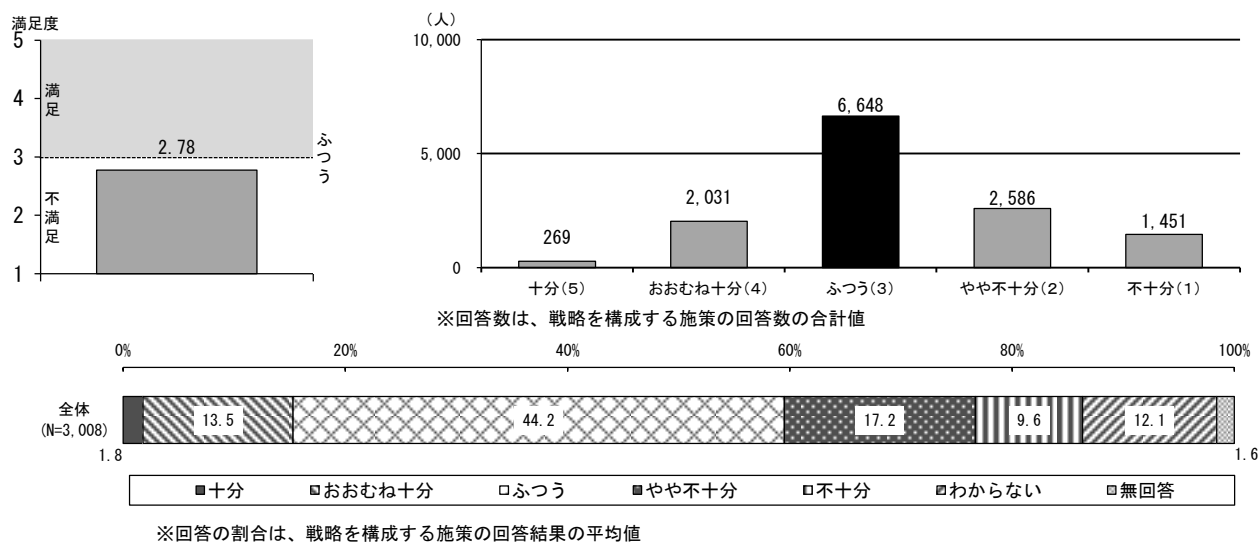
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は15.3%、「ふつう」は40.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は29.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は56.2%であった。



戦略5 誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略（問1-23～問1-27）

5段階評価の満足度の平均値は2.78で、「ふつう」の3より0.22低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

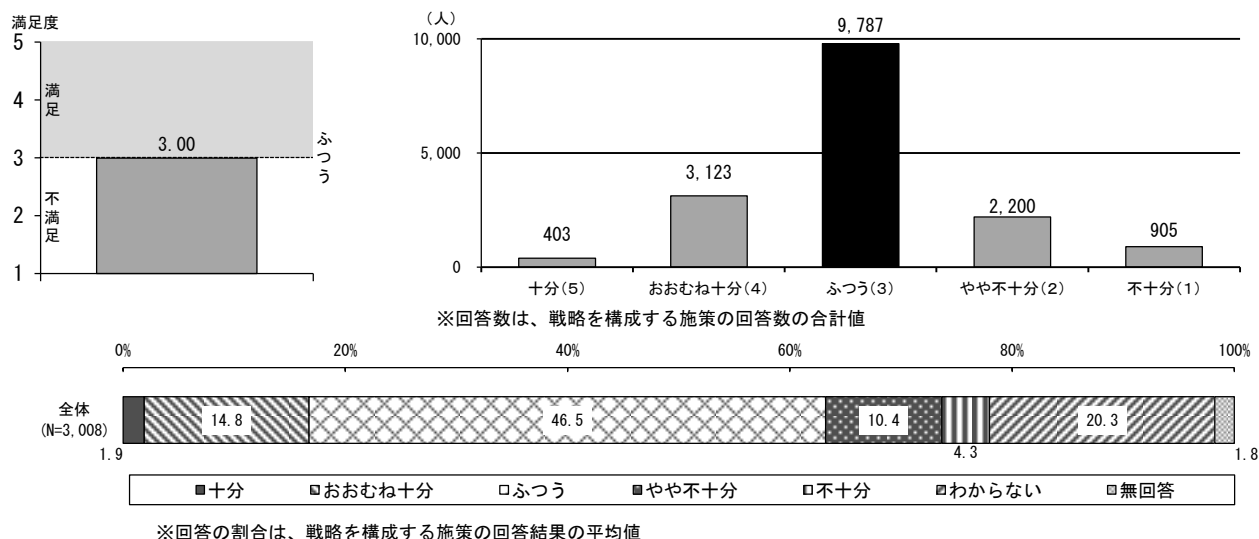
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は15.3%、「ふつう」は44.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は26.8%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は59.5%であった。



戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略（問1-28～問1-34）

5段階評価の満足度の平均値は3.00で、「ふつう」の3と同じであった。回答では「ふつう」が最も多かった。

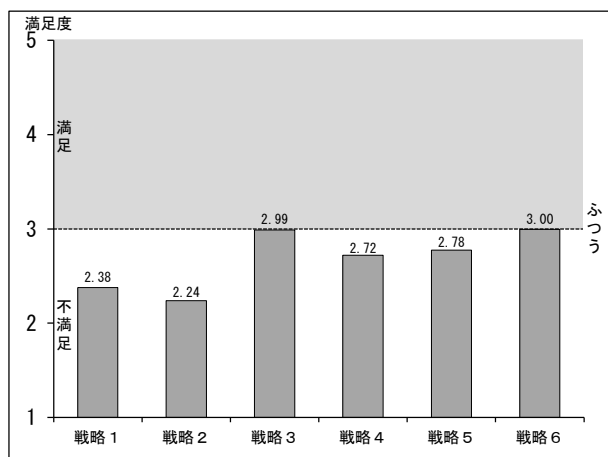
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は16.7%、「ふつう」は46.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は14.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は63.2%であった。



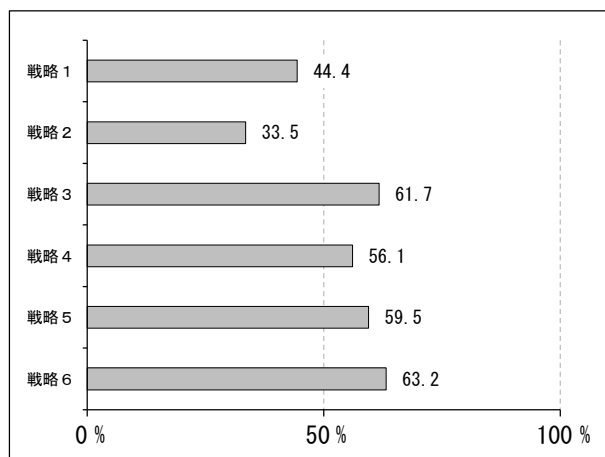
満足度の平均値が最も高かったのは「戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略」の3.00で、不満を感じていない人の割合は63.2%であった。次いで、「戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略」の2.99で、不満を感じていない人の割合は61.7%であった。

満足度の平均値が最も低かったのは、「戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略」の2.24で、不満を感じていない人の割合は33.5%であった。

〔満足度の平均値〕



〔不満を感じていない人の割合の平均値〕



※「満足度の平均値」「不満を感じていない人の割合の平均値」とも、戦略を構成する施策の回答結果の平均値であり、各戦略そのものの満足度、割合ではない。